

# FUKUOKA



「それぞれの精いっぱい」  
(福岡県立川崎特別支援学校)



運動会・徒競走



近隣の小学校との交流及び共同学習



生活単元学習・調理実習



作業学習・園芸

## CONTENTS

### 教育の広場

双方向型の社会総がかりの教育の実現  
コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりの取組のポイント  
福岡教育大学教職大学院 教授 森 保之 …… 1

### 特集

- 令和元年度 教育委員会の権限に属する事務の管理  
及び執行状況についての点検及び評価 (平成30年度対象) の概要  
[総務企画課] …… 3
- 平成31年度 (令和元年度)  
全国学力・学習状況調査の結果概要について [義務教育課] …… 8
- ～いきいき茨城ゆめ国体2019～「チーム福岡が茨城の地で躍動!!」  
[体育スポーツ健康課] …… 10

### 県立学校の特色ある取組

「新たな学びプロジェクト」の推進による授業改善  
～主体的な学びをとおして、自己を表現することができる生徒の育成～  
[福岡県立直方高等学校] …… 11

### 令和2年度から令和5年度使用小学校教科用図書及び 令和2年度使用中学校教科用図書の採択の概要と採択結果

[義務教育課] …… 13

### 特色ある学校教育活動

食を大切にし、食に主体的に関わろうとする幼児児童生徒の育成  
[北九州視覚特別支援学校] …… 16

### 躍動する中・高校生

全国大会を振り返って  
[福岡県高等学校体育連盟 福岡県中学校体育連盟  
福岡県高等学校野球連盟] …… 19

### 福岡教師塾について

教育者としての志を立てる「福岡教師塾」 [福岡県教育センター] …… 24  
スクール・ミュージアム事業 (アートコース) について [福岡県立美術館] …… 26

### お知らせ

体育スポーツ健康課/福岡県教育センター/  
福岡県立社会総合教育センター/福岡県体育研究所/  
福岡県立少年自然の家「玄海の家」/放送大学福岡学習センター/  
福岡県青少年科学館 …… 28  
九州歴史資料館 展示品 名選No. 41 [九州歴史資料館]

「教育福岡」はホームページ上で  
見ることができます。

福岡県 検索  
教育委員会>総務企画課>「教育福岡」をクリック

<九州ロゴマーク>  
「九州の連携」を象徴し、  
「九州はひとつ」を表現  
しています。



## 10/24 青豊高校ダンス部 教育長表敬訪問

2019年全国高等学校ダンスドリル選手権大会（8月10日～11日、丸善インテックアリーナ大阪）ポン部門スモール編成において優勝し、三連覇（2017～2019年）を果たしたことを報告するため、城戸教育長を表敬訪問しました。また、受賞内容について梶谷瑚々菜さんが説明しました。



## 11/6 移動教育委員会及び学校視察

小郡高校において移動教育委員会が行われた後、授業視察や職員との意見交換を行いました。

小郡高校は平成30年度からグローバル人材育成強化校に指定され、授業見学では、電子黒板などのICT機器を用いて生物の授業を英語で行う英語イマージョン授業を見学しました。



## 11/12 太宰府高校美術部・書道部、ライフル射撃部 教育長表敬訪問

太宰府高校美術部・書道部の<sup>おおやまあやね</sup>大山彩音さん、<sup>しばたゆき</sup>柴田唯希さん、<sup>にしだあきか</sup>西田秋花さんが第75回福岡県美術展覧会及び第20回高校生国際美術展において福岡県知事賞受賞、また、射撃部の<sup>こやなぎゆうせい</sup>小柳勇生選手が2019年JOCジュニアオリンピックカップ兼第30回ISSFジュニアライフル射撃競技選手権大会10mエア・ピストル少年男子60発競技で優勝したことを報告するため、城戸教育長を表敬訪問しました。



## 11/18 青豊高校及び中間高校陸上競技部 教育長表敬訪問

JOCジュニアオリンピック大会日本陸上競技選手権大会に出場し、伊藤彩香選手（青豊高校）がU18女子100mハードルにおいて、また、<sup>だいのぶめぐみ</sup>台信愛選手（中間高校）がU20女子棒高跳においてそれぞれ優勝したことを報告するため、城戸教育長を表敬訪問しました。選手挨拶では両選手とも今後の目標を述べました。



## 11/20 八女工業高校電子機械研究部 教育長表敬訪問

第27回全国高等学校ロボット競技大会（10月26日～27日、新潟県アオーレ長岡）において優勝した八女工業高校電子機械研究部12名が、受賞報告のため城戸教育長を表敬訪問しました。また、受賞内容について<sup>いしばしあおい</sup>石橋葵さんが説明しました。



## 今月の表紙「元気いっぱい子どもたち」

### 「それぞれの精いっぱい」 福岡県立川崎特別支援学校

本校は、知的障がいのある小学1年生から中学3年生までが在籍している学校です。教育目標に「児童生徒の健康な心身の育成及び社会的自立と社会参加の達成」を掲げ、児童生徒一人一人が大切にされ、将来の希望が見いだせる学校づくりを目指しています。また、本校の校訓は「精いっぱい」であり、「子供たちのそれぞれの精いっぱい」を見据えた教育活動を実践しています。

本校は、子供の将来像を本人、保護者、教職員で共通認識し、小学部から中学部まで系統立てた教育を計画、実施しています。また、近隣の小学校や中学校、老人福祉施設との交流及び共同学習、多くのボランティアの方に支援いただいている学校活性化推進事業等、地域に開かれた学校づくりにも力を入れています。

子供達は行事や学習、友達との関わり等、様々な体験活動の中で「それぞれの精いっぱい」を発揮し、自立と社会参加に向けて日々学びを深めています。

## 双方向型の社会総がかりの教育の実現 コミュニティ・スクールを核とした地域と ともにある学校づくりの取組のポイント

福岡教育大学教職大学院  
教授 森 保 之



〇はじめに

変わりゆく社会や教育のしくみの中で、学校は保護者や地域住民の力を学校運営に生かす「地域とともにある学校づくり」の推進により、社会総がかりで教育再生を實行し、子どもや学校・地域が抱える課題を地域とともに解決するとともに、新学習指導要領の一つの理念である「社会に開かれた教育課程」の実施を通して、子どもたちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることが求められています。そのために、各学校がコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入をめざし、地域社会や関係機関等との連携・協働体制を確立して、学校種や地域の特徴、多様な人材・資源等を活用した質の高い未来創造型の教育を実現する必要があります。現在のコミュニティ・スクールの導入状況（平成30年4月1日現在）は、5432校の学校が導入されています。前年度と比べると設置校は1.5倍に増えてきています。特に高等学校、特別支援学校のコミュニティ・スクールはともに5倍以上増えてきているのが特徴です。校種の広がりも見え、コミュニティ・スクールの

しくみを多様に活用した新たなコミュニティの創造もなされつつあります。そこで本稿では、コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりの取組のポイント・留意点を示します。

### 一 双方向による連携・協働の関係構築

コミュニティ・スクールを推進していく上で最も強調したいのが「双方向の関係の構築」です。コミュニティ・スクールにおいては、三者が双方向の連携・協働関係を構築し、校区の中で子どもたちを共に育てるといふ「共育文化」を醸成することが必要です。この双方向性というのは、一つは地域・学校が学校に対して働きかける学校支援活動（A）、二つは、学校が地域・家庭に対して働きかける地域還元貢献活動（B）、三つは、学校と地域・家庭がともに協働する活動（C）の姿です。このA、B、C（3つの活動軸）が存在したとき双方向の関係が成り立つと考えます。

### 二 地域とともにある学校の運営に備えるべき3機能

コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校を進めていくには、学校・地域・家庭三者の相互理解・相互信頼を前提にして、

次の3つの機能を備える必要があります。

①(熟議) 関係者がみな当事者意識を持ち、子どもたちがどのような課題を抱えているのかという実態を共有するとともに、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかという目標・ビジョンを共有するために「熟議(熟慮と議論)」を重ねることです。コミュニティ・スクールを進めるには、この熟議の過程が最も大切であり、関係者が「熟議」に参画しやすいしくみの構築と「熟議」の題材が不可欠となります。学校・教育委員会を中心となって「教育ビジョン」と「学校の実態」を提示し、これをもとに、根気よく丁寧に「熟議を重ねる」ことで、学校と地域の人々との相互理解が進み、課題や目標の共有が図られることとなります。このプロセスは当事者意識の醸成を促し、一体感を生み出す効果を持つのです。

②(協働) 学校と地域の信頼関係の基礎を構築した上で、学校運営に地域の人々が「参画」し、共有した目標に向かうとともに「協働」して活動していくことです。

③(マネジメント) その中核となる学校は、校長のリーダーシップのもと、教職員全体がチームとして力を発揮できるように、組織としての「マネジメント」力を強化することです。

### 三 コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の一体的・効果的な推進

前述したとおり、コミュニティ・スクールは「地域とともにある学校」へと転換していくために有効なしくみであり、学校を応援し、地域

の実情を踏まえた特色ある学校づくりを推進していく役割を明確化するとともに、その役割を具体化する機能として、地域住民や保護者等による学校支援に関する総合的な企画・立案を行い、これらのものにおける連携・協働を促進していくしくみとしていくことが提言されています。地域とともにある学校としてより多くの地域住民や保護者等が学校運営に参画し、協働による取り組みを展開していくためにも、地域学校協働本部との連携を強化していくことが有効です。地域学校協働本部は、社会教育の実践の場であると同時に、地域がきっかけを作ること、子どもたちが学習を進化させるものです。特に、これから発展していく地域学校協働本部が、コミュニティ・スクールとともに活動を推進することにより、学校教育を含めた子どもたちの教育の質を格段に向上させることが期待できると考えます。

### 四 コーディネート機能の充実

このように、子どもたちのために、地方創生の実現のために、コミュニティ・スクールの機能、地域学校協働本部の機能のそれぞれを大切にしつつ、両者が相互に補完し、高め合う存在として、両輪となつて相乗効果を発揮していくことが必要です。そのための整備において重要となるのがコーディネート機能の強化です。社会教育法の一部改正で、「コーディネーターを委嘱することができる」が示されました。地域コーディネーターの持続可能な体制の整備、人材の育成・確保、質の向上が今後重要になってくると思います。

## 特集

# 令和元年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価(平成30年度対象)の概要

## 総務企画課

この度、県教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、令和元年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価(平成30年度対象)を実施し、報告書にまとめ、9月県議会に提出しました。ここでは、報告書の概要を紹介します。

### 教育委員会の活動状況

#### 1 主な活動実績

##### (1)教育委員会開催実績

- ・ 定例会を12回、臨時会を11回、委員協議会を12回開催しました。

##### (2)教育委員会会議以外の活動

- ・ 学校訪問を26回、各種行事への出席を12回、総合教育会議(2回開催)への出席、他の都府県との協議を11回行いました。

#### 2 成果

- ・ 定例会のほか臨時会を積極的に開催し、活発な議論を行いました。
- ・ 移動教育委員会の実施や、授業視察や教職員との意見交換を行うことで教育現場の実態把握や情報収集に努めるとともに、知事・副知事との意見交換会を行うことで教育行政について共通

理解、相互の連携を図りました。

#### 3 課題

- ・ 県民の意向を反映した教育行政を実現するためには、教育現場の実態把握等を今後も継続する必要がありますが、今後とも教職員をはじめとした関係者との意見交換に努めていく必要があります。

#### 4 対応

- ・ 教育現場の実態把握や関係者との意見交換の拡充を図るため、視察や、情報交換を充実するほか、関係団体主催の協議会等への参加に努めます。

### 教育施策の推進状況

教育施策の推進状況について、「平成30年度福岡県教育施策実施計画」が定める教育施策の7つの柱ごとにこれを構成する施策の点検及び評価を行っています。また、指標については、「平成30年度福岡県教育施策実施計画」に掲げられた目標値に向けての状況を次の4段階の基準で評価しています。

◎	既に目標を達成している。
○	目標達成に向けて順調に推移している、または、概ね目標を達成している。
△	目標達成に向けて、取組の強化が必要である。
▲	目標達成のためには、取組の抜本的改善が必要である。

#### 柱1 「学力、体力、豊かな心」を育成する

##### 1 学力の向上

#### ◆確かな学力向上のための取組の推進

##### 【主な取組・事業】

- 福岡県学力向上推進計画に基づく学力向上総合推進事業

- ・ 平成29年度以降、福岡県学力調査の対象学年を小5、中1、中2とすることで途切れなく児童生徒の実態を把握

##### ○「主体的・対話的で深い学び」推進事業

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」授業実践講座の実施
- ・ 福岡県立学校「新たな学びプロジェクト」の実施(研究開発校11校)

##### 【指標】

確かな学力の育成(全国学力・学習状況調査にお

ける標準化得点の教科ごとの平均値)

現状値(平成30年度)	目標値(令和3年度)	達成状況
(小)国語数 100.6 (中)国語数 99.6 数学 97.5	(小)国語数 100以上 (中)国語数 98.9以上 数学 98.6以上	○

【成果】

・全国学力・学習状況調査の小学校の標準化得点は、調査の始まった平成19年度と比較して、全ての教科区分において上昇しました。

【課題】

・全国学力・学習状況調査において、中学校の標準化得点は、3つの教科区分で全国を下回っています。

【対応】

・小中学校において、組織的な検証改善サイクルを中心となつて進めるミドルリーダー等の人材育成、定期考査問題の改善や書くことを重視して思考力・判断力・表現力等を育む授業改善、小中連携を図る組織マネジメント等の取組を推進します。

2 体力の向上

◇体力向上のための取組の推進

【主な取組・事業】

- 福岡県体力向上総合推進事業
- ・「スポコン広場」地区大会の開催
- ・21市町村にオリンピック・パラリンピックを派遣

【指標】

子どもの体力の向上(全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の県平均値)

現状値(平成30年度)	目標値(毎年度)	達成状況
(小)男子 55.25 (54.21) 女子 56.32 (55.90) (中)男子 43.55 (42.32) 女子 51.25 (50.61) ( ) は全国平均値	全国平均以上	◎

【成果】

全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、小学校男子は4年連続、中学校男子は3年連続、小中学校女子は2年連続全国平均値を上回りました。また、小学校男女及び中学校男女全ての区分で県平均値が過去最高値となりました。

【課題】

学校の体育の授業以外で、週3日以上運動やスポーツをする児童生徒の割合が低下しています。

【対応】

小・中学校教員を対象とした体力向上指導者研修会の実施や「1校1取組」運動の継続的な実施をおして、体育・保健体育の授業改善とともに、「スポコン広場」の参加推奨やオリンピック・パラリンピック教育の推進等により、子どもたちの運動の動機付けと習慣化を図ります。

柱II 「社会にはばたく力」を育成する

1 多様で特色のある能力や個性の伸長

◇特別支援教育の推進

【主な取組・事業】

- 発達障がい児等教育継続支援事業

・ふくおか就学サポートノート(引き継ぎシート)の配布 シート等による引継の実施割合

平成30年度:69・2%

○高等学校等通級指導推進事業

・通級指導員を4校に計9名配置し、高等学校における通級による指導を実施

【指標】

特別支援教育体制の整備(公立の幼稚園・認定こども園・小・中・高等学校において、特別な支援が必要であると考えられる幼児児童生徒に対する①個別の指導計画及び②個別の教育支援計画の作成の割合)

現状値(平成30年度)	目標値(令和3年度)	達成状況
① 94.2%	① 100%	○
② 93.6%	② 100%	

【成果】

各種研修会を通して、早期からの一貫した継続的な支援の必要性や発達障がいの可能性のある幼児児童への支援の重要性を周知し、個別の教育支援計画の作成率が向上しました。

【課題】

・県立特別支援学校の在籍者数が増加するとともに、重度・重複化・多様化しています。

・個別の教育支援計画及び個別の指導計画を、支援が必要な幼児児童生徒全てに作成する必要があります。

【対応】

- ・「県立特別支援学校の今後の整備方針について」及び「県立特別支援学校設置計画」に基づき、県立特別支援学校の整備を進めます。
- ・個別の指導計画及び個別の教育支援計画が、必

要とする全ての幼児児童生徒に対して作成されるよう啓発・指導を行います。

柱Ⅲ 「郷土と日本、そして世界を知る力」を育成する  
1 郷土の魅力を学び、世界の多様性を理解

◇国際的視野を持つ人材の育成

【主な取組・事業】

- グローバル化に対応した英語教育の推進
- ・英語教育推進リーダー研修（教員）  
3人を計10日間、中央研修に派遣
- ・福岡県英語教員指導力向上研修の実施  
（年6回 557人）

【指標】

生徒の英語力①CEFR A1レベル相当以上（英検3級程度以上）の資格又は相当する力を有する中学校生徒の割合 ②CEFR A2レベル相当以上（英検準2級程度以上）の資格又は相当する力を有する県立高等学校生徒の割合

現状値（平成30年度）	目標値（令和3年度）	達成状況
① 45.2% ② 43.5%	① 50% ② 50%	○

【成果】

- ・「聞く」「読む」「話す」「書く」力を育成する英語の授業改善が図られました。
- ・CEFR A1レベル相当以上（英検3級程度以上）の資格又は相当する力を有する中学生の割合は、45.2%で全国平均（42.6%）を上回り、前年度から4.5ポイント上昇し順調に向上しています。

【課題】

- ・英語に関する生徒の4つの技能を総合的に育成するため、英語教員の指導力と英語力をさらに高める必要があります。
- ・CEFR A1レベル相当以上（英検3級程度以上）を取得する中学生の割合を引き続き向上させる必要があります。

【対応】

- ・福岡県英語教員指導力向上研修の中で、英語指導スキル向上のための演習を実施し、外部検定試験（TOEIC）の受験を奨励します。
- ・中学3年生を対象とした英検I B Aテストや中学生英語スピーチコンテストを行い、英語力の高い生徒の育成に努めます。

柱Ⅳ 生涯学習社会をつくる  
1 生涯学習・社会教育の総合的推進

◇社会教育活動の推進

【主な取組・事業】

- NPOやボランティア団体との連携・協力の推進
- みんなで育もう！ふくおかの子ども育成支援フォーラム 参加者181人
- 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究会（2日間） 参加者延べ727人

○社会教育関係職員の資質向上

- ・市町村新任社会教育関係職員研修（2回） 参加者延べ141人
- ・社会教育専門研修（3回） 参加者延べ90人
- ・県社会教育主事研修会 参加者延べ192人

【指標】

社会教育に関する学習情報提供の充実（ふくおか社会教育ネットワークへのアクセス件数）

現状値（平成30年度）	目標値（毎年度）	達成状況
376,824 件	300,000 件	◎

【成果】

- ・中国・四国・九州地区生涯教育実践研究会では、地域の様々な課題を解決するため、行政だけでなく、NPOやボランティア、企業等地域で活動を行う様々な団体等が集い、生涯学習・社会教育に係る実践協議を深めるとともにネットワークを築くことで、地域の連携・協力体制の充実と教育環境整備、地域の様々な課題の解決に役立てることができました。

【課題】

- ・地域の人材育成・課題解決と社会教育の振興につながる研修の充実が求められています。
- ・SNSのみの利用者が増加していることや情報収集に使用する端末の多様化に伴い、より市民のニーズに応えられるよう情報の発信方法を検討する必要があります。

【対応】

- ・市町村職員、ボランティア等、社会教育関係者が地域の課題解決や社会教育振興に資する研修の充実を図る。
- ・必要な情報を適切に発信するために、県民が情報収集に使用する端末やソフトの変容への対応について研究をすすめる。

柱V 県民の文化活動を盛んにする  
1 文化の振興

◇県民文化芸術活動の振興

【主な取組・事業】

○県立美術館の機能の充実

展示会の実施 常設展、企画展、実行委員会展  
平成30年度福岡県立美術館所蔵品巡回展「移動美術館展」、第74回福岡県美術展覧会（県展）

【指標】

県立美術館の利用（県立美術館の入館者数）

現状値（平成30年度）	目標値（毎年度）	達成状況
233,336人	160,000人	◎

【成果】

県立美術館では、「息を呑む繊細美 切り絵アート展」「印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション」など県民のニーズに応えた展覧会が開催できたことにより、入館者数が目標値を大きく上回りました。

【課題】

- ・今後も引き続き県民の美術に関する鑑賞・創作意欲を高めていく必要があります。
- ・福岡県美術展覧会（県展）については、出品数の減少が続いています。

【対応】

- ・県民の芸術的ニーズを重視した実行委員会展を今後も開催するとともに、これまで蓄積した県立美術館の財産やノウハウを生かした展覧会を

開催するなど、県民の美術に関する鑑賞・創作活動の更なる促進を図ります。  
・マスコミヤ民間企業との連携による効果の高い広報や、インターネット等を使った情報発信を積極的に行います。

柱VI 県民のスポーツ活動を盛んにする  
1 大規模国際スポーツ大会等を契機としたスポーツの振興による地域活性化

◇県民に希望や元気を与える競技スポーツの推進

【主な取組・事業】

○ジュニアアスリート育成強化事業

- ・育成システム整備事業 26団体
- ・指導者・育成海外派遣事業 2団体
- ・中央研修指導者派遣事業 4団体
- ・競技用具整備事業 2団体
- ・トップアスリート育成強化事業 70人
- 女性アスリートの育成
- ・女性アスリートの県外遠征・主要大会への参加事業の実施 14回

【指標】

競技スポーツの振興（国民体育大会における男女総合成績順位）

現状値（平成30年度）	目標値（毎年度）	達成状況
8位	8位以内	○

【成果】

- ・各競技団体の強化策を再点検し、競技団体において計画的な当年度強化事業が実施されたこと

で競技力が向上し、国民体育大会において男女総合成績8位となりました。

・女性アスリート育成強化システムの確立を目指し、強化拠点の整備や有望選手の発掘を行ったほか、強化練習会をはじめ、県外遠征等の参加を促し活動の機会を充実させた結果、国民体育大会女子総合成績において8位となりました。

【課題】

国民体育大会本大会出場権獲得数が減少しています。

【対応】

- ・国民体育大会常時8位入賞を目指して、強化事業を充実します。
- ・女性アスリートの練習環境の充実を図るために、関係機関や団体等の協力を得ながら、強化拠点の整備や県外遠征等の支援、女性指導者養成のための研修会等を実施します。

柱VII 人権が尊重される心豊かな社会をつくる  
1 人権尊重の意識や行動の定着及び人権施策の推進

◇人権教育・人権啓発の推進

【主な取組・事業】

- 人権教育を基盤にした学校づくり研究事業の実施
- ・研究指定校授業交流会 計6回  
推進協議会 計18回
- 人権教育実践交流会・人権教育指導者養成連続講座
- ・人権教育実践交流会 実施回数3回  
研修参加人数延べ2312人
- ・人権教育開催講座数 年間8回  
受講者数計24人

【指標】

人権教育の推進（人権教育推進の中核となる指導者養成研修を修了した教員の累計人数）

現状値（平成30年度）	404人	目標値（平成30年度）	400人	達成状況	◎
-------------	------	-------------	------	------	---

【成果】

研究指定校事業交流会等を開催し、人権教育を基盤にした「効果のある学校」について理解を深めることができました。

【課題】

若年層教職員の人権意識や知識、指導力等の向上を図る必要があります。

【対応】

人権教育に係る指導力等達成目標に則した、教職経験年数や職務に応じ、指導内容を明確にした研修を実施します。

学識経験者意見

○石丸哲史 福岡教育大学教授

・教育委員会の活動状況について  
 新教育委員会制度のもと、教育委員が保護者や各方面でご活躍の方々によって構成されていることは、広く市民の意向を反映した責任ある教育行政の実現に向かった体制といえる。定例会の回数に匹敵するほどの臨時会の開催実績からは適時適切に、また「移動教育委員会」という名称から察することもできるが、教育事務所や県立学校に足を運ばれており、常に現場に寄り添う姿がうかがえる。

・確かな学力向上のための取組の推進

全国学力・学習状況調査の結果に対しては、平成19年度以降の経年変化を視野に入れながら客観的な評価を積み重ねてきたこともあり、長期的視点に立った精緻な学力分析が行われている。また、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業実践の必要性を認識しこれを課題としてあげていることから、今後とも着実に進めていく必要がある。

○古市勝也 九州共立大学名誉教授

・社会教育活動の推進

県民の学習ニーズや社会的課題に対応するため、学習環境・機会を提供するとともに、その学習成果を活用した地域づくり・まちづくりが求められる。社会教育関係職員・団体等を対象とした研修会とおして、学習ニーズや社会的課題に応じた学びの場の提供がなされている。関係者の努力を評価したい。

・県民に希望や元気を与える競技スポーツの推進

国民体育大会において男女総合成績（天皇杯）が目標値の8位入賞を果たした。関係者の努力を高く評価したい。一方、国民体育大会出場権獲得数が減少しており、強化活動（遠征・合宿等）等の重点的な支援が求められる。特に、来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催される。県民は、オリンピック等で福岡出身選手の活躍を夢見ており、さらなる強化に期待したい。

○村上裕章 九州大学大学院教授

・特別支援教育の推進

「特別支援教育の推進」については、特別支援学校の在籍者数の増加、障がいの重度・重複化、多様化への対応が求められている。特別支援学校

の整備、個別の指導計画・教育支援計画の作成、医療的ケアの整備などが進められているが、個性の子どもの個別的なニーズに応えうる体制を整備していただきたい。

・国際的視野を持つ人材の育成

「国際的視野を持つ人材の育成」は、国際コミュニケーション能力が社会人にとって必須となっている中、ますます重要性が高まっている課題である。留学助成金の支給、留学説明会の実施、外国語指導助手の活用など、施策が強化されており、海外留学が増加することを期待している。大学入試制度改革においては英語民間試験を活用することとされており、議論を呼んでいるが、本県でもCEFRでA2レベル相当以上の高校生が増えていることは心強い。また、小学校における英語教育が強化されつつあるが、他教科の学習にも配慮しつつ、効果的な学習方法の確立を目指していただきたい。

※報告書の内容は、福岡県のホームページでも公表しています。

(<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/1/tenken-hyoka.html>)

## 特集

# 平成31年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査の結果概要について

## 義務教育課

平成31年4月18日に実施された文部科学省の「全国学力・学習状況調査」の結果概要を報告します。

これまで、国語、算数・数学については、主として「知識」に関する問題（A問題）、主として「活用」に関する問題（B問題）に区分して出題されてきましたが、本年度からA・B問題が一体的に出題されるようになりました。

### 1 調査の概要

#### (1) 調査事項

○教科に関する調査(国語、算数・数学、※英語)

※ 英語は中学校のみで実施

○質問紙調査（児童生徒の学習や生活の諸側面等、学校における指導方法や教育条件の整備状況等）

#### (2) 調査の対象

○小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年  
○中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

### 2 教科に関する調査の結果

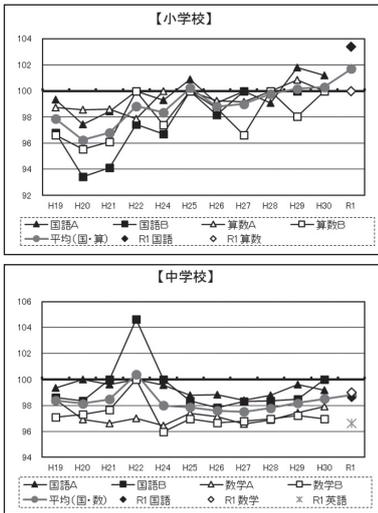
#### (1) 各教科区分の※標準化得点

本県（公立）小学校の標準化得点は、算数で全国平均と等しく、国語で全国平均を上回りました。また、標準化得点の推移は、国語、算数の平均において、5年連続で向上しています。

中学校では、全ての教科で全国平均を下回りましたが、標準化得点の推移は、国語、数学の平均において、4年連続改善傾向が続いています。

※ 標準化得点・・・全国の平均正答数を100としたときの本県の平均得点

本県の標準化得点の推移



#### (2) 教科ごとの状況

各教科の設問のうち、次のような課題がみられました。

- ◆…正答率が一番低い内容
- …記述式問題において無解答率が一番高い内容

#### 小学校

##### 〈国語〉

- ◆「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」こと
- 「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」こと

##### 〈算数〉

- ◆「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる」こと

#### 中学校

##### 〈国語〉

- ◆「封筒の書き方を理解して書く」こと
- 「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」こと

〈数学〉

◆「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」こと

●「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」こと

〈英語〉

◆「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く」こと

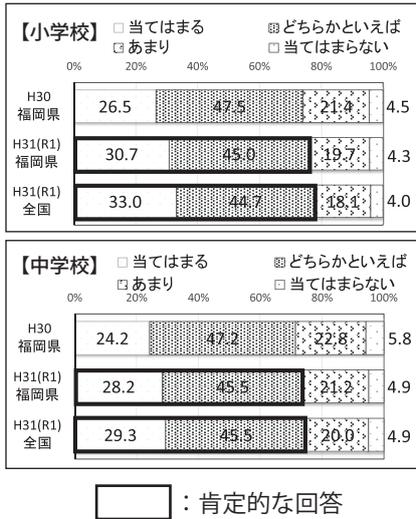
●「聞いて把握した内容について、適切に応じる」こと

3 質問紙調査の結果

(1) 児童生徒対象の質問紙調査

○課題の解決に向けた取組

課題の解決に向けた取組



□ : 肯定的な回答

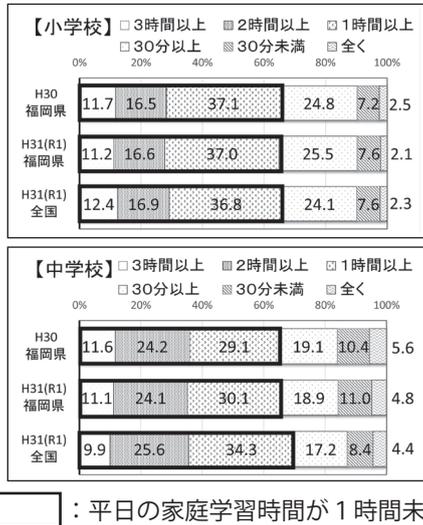
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」について肯定的な回答をした割合を昨年度と比較すると、小・中学校ともに増加しましたが、全国と比較すると、小学校は2.0ポイント、中学

校は1.1ポイント下回りました。

○平日の家庭学習の時間

「平日の家庭学習の時間が1時間以上」の児童生徒の割合を昨年度と比較すると、小学校は減少、中学校は増加し、全国と比較すると、小学校は1.3ポイント、中学校は4.5ポイント下回りました。

平日の家庭学習の時間



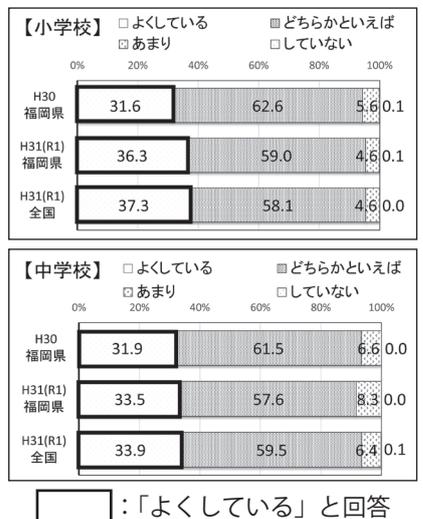
□ : 平日の家庭学習時間が1時間未満

(2) 学校対象の質問紙調査

○検証改善サイクルの確立

「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立」について、「よくしている」と回答した学校の割合を昨年度と比較すると、小・中学校ともに増加しましたが、全国と比較すると、小学校は1.0ポイント、中学校は0.4ポイント下回りました。

検証改善サイクルの確立



□ : 「よくしている」と回答

4 今後の取組

小・中学校ともに継続的な学力向上傾向が見られる要因の一つとして、これまでの県・市町村・学校・家庭・地域が一体となった授業改善の取組結果が着実に表れてきているものと考えられます。一方、児童生徒の主體的な課題解決を保障した授業改善等に課題が見られます。

今後、県教育委員会では、他地区の優れた学校経営等を学ぶ地区間交流研修や中学校学力向上推進拠点校事業最終報告会等を通して、授業づくり等について学び合う機会を充実します。また、本年度の成果と課題を踏まえた県の取組については、12月に学力調査結果報告書で発信します。

## 特集

# 「いきいき茨城ゆめ国体2019」 「チーム福岡が茨城の地で躍動!!」

## 体育スポーツ健康課

「翔べ 羽ばたけ そして未来へ」の大会スローガンのもと、令和元年9月28日(土)から10月8日(火)(会期前競技は9月7日～16日)までの11日間、茨城県において第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体2019」が開催され、福岡県代表として選手・監督及び役員等総勢617名の選手団が参加しました。

現地結団式(写真1)には、本県選手団の副団長である(公財)福岡県体育協会住吉徳彦理事長をはじめとする70名が参加しました。栗原渉県議会議長をはじめ多くの方々の激励の挨拶や、総監督である県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課稲富勉課長の勝関で参加している選手たちの士気を高めました。ひたちなか市笠松運動公園陸上競技場で行われた総合開会式では、旗手を務めたホッケー競技成年女子の赤木さくら選手(天理大学)を先頭に、本大会からデザインを一新した新ユニフォームを身にまとった福岡県選手団が堂々と入場行進(写真2)を行い、熱戦の火ぶたが切られました。

各競技会場では、「チーム福岡」としての誇りを胸に気持ちを一つにし「ONE TEAM」となっており、福岡県選手団の素晴らしい活躍が数多く見られました。団体競技では、バスケットボール競技少年男子、ハンドボール競技少年女子、自転車競技男子4kmチーム・パリースュー

ト、柔道競技女子、ラグビーフットボール競技少年男子、ゴルフ競技少年男子の6団体が優勝しました。個人競技においても、水泳競技、ボート競技、セーリング競技、陸上競技、自転車競技、ゴルフ競技で10名の優勝者が出た他、多くの競技で上位入賞者が誕生しました。また、陸上競技が25年ぶり、ラグビーフットボール競技が3年連続で競技別天皇杯を獲得するなど、これまで継続して行ってきた強化対策が実を結ぶ結果となりました。最終成績は、「男女総合成績11位」、「女子総合成績10位」と目標である常時8位以内入賞を達成することができました。また、本県選手の活躍は県民に元氣と感動を与えていることができたと感じます。

これもひとえに、常日頃から強化合宿や練習を積み重ねられた各競技団体の選手や監督・関係者が、「チーム福岡」として一丸となって御尽力いただいた賜物であると感じております。今後とも、各競技団体をはじめ本県スポーツの推進に関わるすべての機関が密接に連携を図り、中・長期的な強化策や当年度の強化等の方策を更に充実させることにより、県民に夢や希望を与えることができるトップアスリートを育成するなど、より一層の競技力向上に取り組んでまいります。



(写真2) 総合開会式で入場行進する本県選手団



(写真1) 現地結団式に参加した本県選手団

近年の国民体育大会における本県選手団の成績

	H27	H28	H29	H30	R1
男女総合成績	8位	13位	9位	8位	11位

※冬季国体の得点を加算した順

## 「新たな学びプロジェクト」の推進による授業改善 ～主体的な学びをとおして、自己を表現することができる生徒の育成～

### 福岡県立直方高等学校



はじめに

創立110周年を迎えた本校は、文武両道を掲げ、「礼節を重んじ、努力を惜しまず、理想を追求する」を校訓として人材の育成に努めています。スクールポリシーである「志の実現に向けて努力を続け進取の気鋭を有する人材を育成する」ため、本年度は「主体的な学びをとおして、自己を表現することができる生徒の育成」を目指して、教育活動を行っています。また、本年度の生徒スローガンを「Be Active」とし、様々な学校行事等において、生徒の主体性を育む活動を実践しています。

#### 1 平成30年度の取組

平成30年度、「新たな学びプロジェクト」研究実践校の指定を受け、研究テーマを「深い学びを誘発する学習手法の工夫」として授業改善に取り組みしました。まず、課題を検討した結果、授業で積極的に自らの意見を発表し

たり表現したりすることができないという生徒側の課題と、「深い学び」につなげるための授業の手法が確立されていないという教員側



平成30年度創設のALルーム

の課題が見えてきました。そこで目標は、①生徒の考えが深まるための授業の研究と工夫を行うこと②生徒が自ら考えて積極的に発言したり自身の考えをまとめて表現したりする活動を増やすこと③「主体的・対話的な深い学び」を通じて思考力や表現力、問題解決能力に富んだ生徒を育成すること、の3点としました。さらに、具体的手立てとして、①毎時間の明確な「到達目標」設定②「考察する」場の設定③「表現する」場の設定④一方通行でない授業の進行計画の4点を設定し、7月に第1回公開研究授業を行いました。全ての授業で目標や手立てを明示した「授業構想メモ」を作成し、アクティブ・ラーニングの視点を意識して実践した結果、生徒主体の場面が多くの授業で見られました。

また、12月に、地区版実践発表会と第2回研究公開授業を行い、午前中は研究授業を実施し、午後は全職員が研究協議に参加しまし

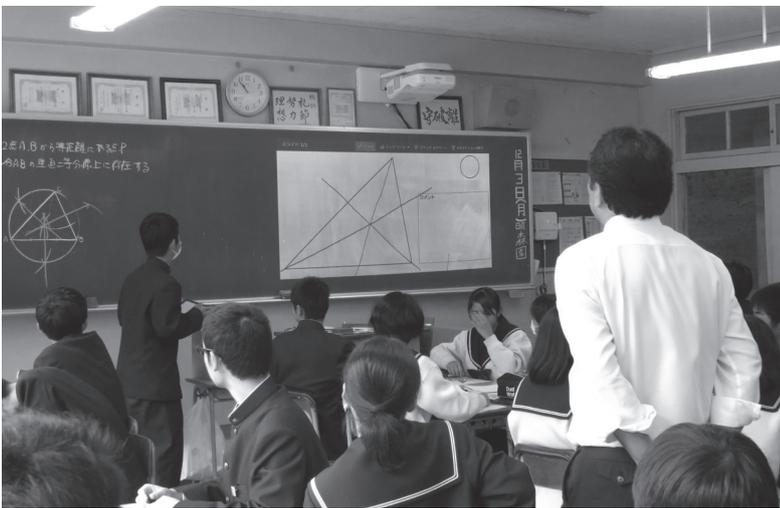
た。研究協議は、研究授業ごとに教科・科目の内容に特化した協議を行い、様々な意見が出され、生徒の活動については「変化させる」より「精度を高める」ことが必要という意見が多数ありました。また、環境整備においては、Wi-Fiの完備で教室でのウェブ画面の投影が可能となり、学習に必要なコンテンツの準備が容易となりました。

## 2 平成30年度の成果と課題

アンケート調査の結果、アクティブ・ラーニングの視点を授業に積極的に取り入れることに対して、全教員が肯定的な意見であることが分かりました。これは、各教員が日ごろから試行錯誤を繰り返し、意欲的に授業改善に取り組んだ成果だと考えています。また、「協議や発表などの考察や表現の場を増やせば、理解度や満足度が向上するのではないか」という仮説に基づいた取組を進めました。生徒が主体的に学ぶ授業では、少なくとも意識の上で理解度と満足度においてプラスの変容が見られました。課題としては、学力向上に係る継続的・客観的な検証や評価方法の工夫、授業改善を行う体制作りの必要性が明らかとなりました。

## 3 令和元年度の取組

本年度は授業改善を組織的に推進するために、伸長したい力を焦点化することとし、研究テーマを、「表現力を高める指導方法の改善並びに効果的な評価方法の確立」としました。まず、各教科で「表現力が高まった生徒の姿」を具体化し、「理由を説明できる」「論理的に伝えられる」「意欲的に」「分かりやすく」などのキーワードがあげられました。次に、そのための授業の手立てについて協議を重ね、



電子黒板とタブレットを用いた発表

さらにそれらを全職員で共有することとしました。また、生徒に自己評価を行わせ、意識の変容を見取るために「リフレクションシート」の作成に取り組みました。

7月に行った第1回研究公開授業では、表現力を高めるには基礎・基本の定着が不可欠であり、それらを活用させながらグループワークなどで思考を深めることが重要であると再認識しました。また、アンケート結果から「根拠を示して説明することができる」という項目において、生徒の自己評価と教員の評価に差異があることが分かり、深い学びのための発問の工夫と、表現の場の設定に重点をおいて授業改善に取り組む必要性を実感しました。

### おわりに

前年度からの取組で、様々な成果や課題が明らかとなりました。現在、12月に実施する地区版実践発表会と第2回研究公開授業に向けて、学校全体で取組を続けていますが、自己を表現できる生徒の育成のためには、この取組を日常的に継続する教育環境が必要です。更なる向上を目指して、今後も授業改善に邁進していきます。

# 令和2年度から令和5年度使用小学校教科用図書及び 令和2年度使用中学校教科用図書の採択の概要と採択結果

## 義務教育課

### 一 採択までの経過

令和2年度から令和5年度に小学校等で使用される教科書及び令和2年度に中学校等で使用される教科書が、採択地区ごとに採択されました。採択までの経過は、次のとおりです。

- 平成31（令和元）年度
- 4月11日 福岡県教科用図書選定審議会委員の委嘱
- 4月17日 福岡県教科用図書選定審議会会議を開催  
「教科用図書採択基準及び選定資料」について  
県教育委員会から同審議会に諮問
- 4月23日 選定審議会から県教育委員会に対して  
「教科用図書採択基準及び選定資料」の答申
- 4月26日 採択基準及び選定資料を市町村教育委員会  
に送付
- 5月上旬 各採択地区に教科書見本本が到着
- 6月14日 各教科書センターにおいて、教科書展示会  
を実施（14日間）
- ※ 8月31日までに、各市町村教育委員会において令和  
2年度から令和5年度に使用する小学校用教科書及び令  
和2年度に使用する中学校用教科書を採択

### 二 教科用図書選定審議会

「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」により、県教育委員会は、教科用図書選定審議会の意見を聴いた上で、市町村教育委員会が行う教科書採択に関する事務について、適切な指導助言

を行うことになっていきます。

審議会の委員は、条例で20名と定められており、また、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令」により、審議会委員は次の中から任命することとされています。

- 一 義務教育諸学校の校長及び教員（一号委員）
- 二 学校教育に専門的知識を有する県教育委員会の職員並びに市町村教育委員会の教育長、委員及び指導主事等（二号委員）
- 三 教育に関し学識経験を有する者（三号委員）

今年度の審議会委員及び審議会から答申を受けた採択基準は次のとおりです。

区分	氏名	所属・職名
一号委員	藤河 久美 小川 隆弘 小門 恒之 嶋井 加寿江 田毎 幸代 田中 啓子 城戸 泉	春日市立春日東小学校長 古賀市立古賀中学校長 宮若市立宮田小学校主幹教諭 筑前町立三輪小学校主幹教諭 大川市立川口小学校主幹教諭 飯塚市立穂波東中学校主幹教諭 苅田町立苅田中学校主幹教諭
二号委員	佐々木 敏幸 宮川 優子 小井出 正人 野坂 和幸 幸 慎二 伊藤 啓二	岡垣町教育委員会教育長 新宮町教育委員会教育長 北九州市教育委員会指導主事 福岡市教育委員会学校指導課係長 福岡県教育庁北筑後教育事務所長 福岡県教育センター教育経営部長
三号委員	大田 満 大島 まな 松尾 剛 古賀 典子 田中 はるみ 中村 和子 中野 康子	福岡県議会議員 九州女子大学教授 福岡教育大学准教授 福岡県P T A 連合会副会長 福岡県立筑後特別支援学校P T A 会長 福岡県立筑後特別支援学校校長 福岡県立福岡聴覚特別支援学校校長

（平成31年4月17日時点）

令和2年度使用

義務教育諸学校教科用図書の採択基準

- 一 教育基本法に定める教育の目的及び目標並びに学校教育法に定める義務教育の目標及び学校の目的を有効かつ適切に踏まえたもの
- 二 学習指導要領の定める目標及び内容に即し、適切に教材を構成したもの
- 三 地域の実態を考慮し、児童生徒の発達の段階に即し、かつ、指導に際して適切なもの

### 三 教科書採択結果

令和2年度から令和5年度に小学校等で使用する教科用図書及び令和2年度に中学校等で使用する教科用図書について、県内の各採択地区での採択結果は次のとおりです。

# 令和2年度から令和5年度使用小学校等教科用図書採択結果(福岡県)

	国語		社会		算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	保健	道徳	英語
	国語	書写	社会	地区									
発行者数	4社	5社	3社	2社	6社	6社	8社	2社	2社	2社	5社	7社	8社
第一地区	光村	光村	教出	帝国	啓林館	大日本	啓林館	教出	開隆堂	東書	東書	日本文	東書
第二地区	東書	東書	東書	帝国	啓林館	大日本	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書	光文	東書
第三地区	光村	東書	教出	帝国	啓林館	大日本	啓林館	教芸	日本文	開隆堂	光文	東書	東書
第四地区	光村	光村	東書	帝国	啓林館	大日本	啓林館	教芸	開隆堂	開隆堂	東書	光文	東書
第五地区	光村	光村	教出	帝国	啓林館	大日本	啓林館	教芸	開隆堂	開隆堂	光文	光文	東書
第六地区	光村	光村	教出	帝国	啓林館	大日本	啓林館	教芸	開隆堂	東書	光文	日本文	開隆堂
第七地区	光村	東書	東書	帝国	学図	大日本	大日本	教芸	開隆堂	開隆堂	東書	教出	開隆堂
第八地区	光村	光村	教出	帝国	日本文	大日本	東書	教芸	開隆堂	開隆堂	東書	日本文	教出
第九地区	光村	東書	教出	帝国	日本文	大日本	大日本	教芸	日本文	開隆堂	光文	東書	開隆堂
第十地区	東書	東書	教出	帝国	東書	大日本	啓林館	教芸	日本文	開隆堂	東書	東書	開隆堂
第十一地区	東書	東書	教出	東書	啓林館	東書	教出	教出	日本文	東書	東書	教出	三省堂
第十二地区	光村	光村	教出	帝国	啓林館	大日本	大日本	教出	開隆堂	開隆堂	東書	日本文	東書
第十三地区	光村	光村	教出	帝国	日本文	大日本	大日本	教出	開隆堂	開隆堂	東書	教出	東書
第十四地区	光村	光村	教出	帝国	啓林館	大日本	大日本	教出	日本文	開隆堂	学研	日本文	東書
第十五地区	光村	光村	教出	帝国	啓林館	大日本	東書	教芸	開隆堂	東書	光文	日本文	教出
第十六地区	光村	光村	教出	帝国	東書	大日本	東書	教芸	日本文	東書	光文	光文	東書

## ※ 採択地区

地区名	構成地域
第一地区	筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川市
第二地区	古賀市、糟屋郡
第三地区	宗像市、福津市
第四地区	糸島市
第五地区	宮若市、直方市、鞍手郡
第六地区	中間市、遠賀郡
第七地区	久留米市
第八地区	朝倉市、小郡市、うきは市、朝倉郡、三井郡
第九地区	大牟田市、柳川市、大川市、みやま市、三潞郡
第十地区	八女市、筑後市、八女郡
第十一地区	飯塚市、嘉麻市、嘉穂郡
第十二地区	田川市、田川郡
第十三地区	行橋市、京都郡
第十四地区	豊前市、築上郡
第十五地区	北九州市
第十六地区	福岡市

## ※ 発行者一覧(上記に記載のあるもののみ)

略称	発行者
東書	東京書籍株式会社
大日本	大日本図書株式会社
開隆堂	開隆堂出版株式会社
学図	学校図書株式会社
教出	教育出版株式会社
教芸	株式会社 教育芸術社
光村	光村図書出版株式会社
帝国	株式会社 帝国書院
啓林館	株式会社 新興出版社啓林館
日本文	日本文教出版株式会社
光文	株式会社 光文書院
学研	株式会社 学研教育みらい

# 令和2年度使用中学校等教科用図書採択結果(福岡県)

## 1 市町村(組合)立中学校

※道徳については平成31年度から継続して令和2年度まで使用

	国語		社会				数 学	理 科	音 楽		美 術	保 体	健 育	技術・家庭		英 語	道 徳
	国 語	書 写	地 理 的 分 野	歴 史 的 分 野	公 民 的 分 野	地 図			一 般	器 楽				技 術 分 野	家 庭 分 野		
発行者数	5社	5社	4社	8社	7社	2社	7社	5社	2社	2社	3社	4社	3社	3社	6社	8社	
第一地区	東 書	東 書	帝 国	帝 国	東 書	帝 国	日 文	大 日 本	教 出	教 芸	日 文	学 研	開 隆 堂	開 隆 堂	三 省 堂	東 書	
第二地区	三 省 堂	光 村	東 書	東 書	教 出	帝 国	啓 林 館	大 日 本	教 出	教 出	日 文	東 書	東 書	教 函	開 隆 堂	東 書	
第三地区	光 村	教 出	日 文	帝 国	日 文	帝 国	啓 林 館	大 日 本	教 芸	教 芸	光 村	東 書	東 書	東 書	開 隆 堂	東 書	
第四地区	東 書	教 出	帝 国	東 書	日 文	帝 国	啓 林 館	啓 林 館	教 芸	教 芸	光 村	学 研	東 書	東 書	三 省 堂	学 図	
第五地区	光 村	光 村	帝 国	教 出	日 文	帝 国	啓 林 館	大 日 本	教 芸	教 芸	開 隆 堂	学 研	開 隆 堂	開 隆 堂	開 隆 堂	日 文	
第六地区	光 村	光 村	帝 国	東 書	教 出	帝 国	啓 林 館	大 日 本	教 芸	教 芸	光 村	学 研	開 隆 堂	開 隆 堂	開 隆 堂	日 文	
第七地区	光 村	光 村	帝 国	日 文	教 出	帝 国	啓 林 館	大 日 本	教 芸	教 芸	日 文	学 研	東 書	教 函	開 隆 堂	東 書	
第八地区	三 省 堂	学 図	東 書	日 文	教 出	東 書	啓 林 館	大 日 本	教 芸	教 芸	日 文	東 書	東 書	東 書	東 書	日 文	
第九地区	光 村	光 村	東 書	東 書	東 書	東 書	啓 林 館	大 日 本	教 芸	教 芸	日 文	学 研	開 隆 堂	東 書	開 隆 堂	東 書	
第十地区	三 省 堂	光 村	帝 国	日 文	日 文	帝 国	啓 林 館	大 日 本	教 芸	教 芸	日 文	学 研	東 書	東 書	東 書	日 文	
第十一地区	東 書	教 出	帝 国	東 書	東 書	帝 国	啓 林 館	大 日 本	教 芸	教 芸	日 文	学 研	東 書	東 書	学 図	教 出	
第十二地区	光 村	光 村	帝 国	日 文	東 書	帝 国	啓 林 館	大 日 本	教 芸	教 芸	開 隆 堂	学 研	開 隆 堂	開 隆 堂	東 書	日 文	
第十三地区	光 村	光 村	帝 国	日 文	教 出	帝 国	日 文	大 日 本	教 芸	教 芸	日 文	学 研	東 書	東 書	三 省 堂	教 出	
第十四地区	光 村	教 出	帝 国	教 出	教 出	帝 国	日 文	大 日 本	教 芸	教 芸	日 文	学 研	東 書	東 書	三 省 堂	東 書	
第十五地区	光 村	光 村	帝 国	日 文	教 出	帝 国	啓 林 館	大 日 本	教 芸	教 芸	開 隆 堂	学 研	開 隆 堂	東 書	東 書	日 文	
第十六地区	光 村	光 村	帝 国	東 書	東 書	帝 国	啓 林 館	大 日 本	教 芸	教 芸	日 文	学 研	東 書	東 書	開 隆 堂	日 文	

## 2 県立中高一貫教育校

育徳館中学校	光 村	光 村	帝 国	東 書	日 文	帝 国	数 研	大 日 本	教 出	教 出	日 文	大 修 館	開 隆 堂	東 書	三 省 堂	東 書
門司学園中学校	光 村	学 図	帝 国	育 鵬 社	育 鵬 社	帝 国	数 研	東 書	教 芸	教 芸	開 隆 堂	学 研	東 書	東 書	東 書	東 書
宗像中学校	光 村	教 出	東 書	帝 国	東 書	帝 国	啓 林 館	大 日 本	教 芸	教 芸	開 隆 堂	学 研	東 書	東 書	学 図	光 村
嘉穂高等学校 附属中学校	光 村	教 出	帝 国	帝 国	帝 国	帝 国	数 研	大 日 本	教 芸	教 芸	開 隆 堂	学 研	東 書	東 書	開 隆 堂	教 出
輝 翔 館 中等教育学校	光 村	三 省 堂	帝 国	育 鵬 社	育 鵬 社	帝 国	東 書	大 日 本	教 出	教 出	日 文	大 修 館	東 書	東 書	三 省 堂	光 村

### ※ 採択地区構成地域

地 区 名	構 成 地 域
第一地区	筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川市
第二地区	古賀市、糟屋郡
第三地区	宗像市、福津市
第四地区	糸島市
第五地区	宮若市、直方市、鞍手郡
第六地区	中間市、遠賀郡
第七地区	久留米市
第八地区	朝倉市、小郡市、うきは市、朝倉郡、三井郡
第九地区	大牟田市、柳川市、大川市、みやま市、三潁郡
第十地区	八女市、筑後市、八女郡
第十一地区	飯塚市、嘉麻市、嘉穂郡
第十二地区	田川市、田川郡
第十三地区	行橋市、京都郡
第十四地区	豊前市、築上郡
第十五地区	北九州市
第十六地区	福岡市

### ※ 発行者一覧(上表に記載のあるもののみ)

略 称	発 行 者
東 書	東京書籍株式会社
大 日 本	大日本図書株式会社
教 函	教育図書株式会社
開 隆 堂	開隆堂出版株式会社
学 図	学校図書株式会社
三 省 堂	株式会社三省堂
教 出	教育出版株式会社
教 芸	株式会社教育芸術社
光 村	光村図書出版株式会社
帝 国	株式会社帝国書院
大 修 館	株式会社大修館書店
啓 林 館	株式会社新興出版社啓林館
数 研	数研出版株式会社
日 文	日本文教出版株式会社
学 研	株式会社学研教育みらい
育 鵬 社	株式会社育鵬社

# 食を大切にし、食に主体的に 関わろうとする幼児児童生徒の育成

## 北九州視覚特別支援学校



はじめに

本校は、「福岡県立北九州盲学校」として昭和23年に創立、平成22年に「福岡県立北九州視覚特別支援学校」に校名が変更され、現在に至っています。平成30年度には創立70周年を迎え、記念式典、記念発表会を挙行しました。



北九州視覚特別支援学校校舎

本校では、目指す学校像として「関わるすべての人々にとって幸福度日本一の特別支援学校」を掲げ、「希望・創造・飛翔」の校訓の下、全校児童生徒27名（小学部5名、中学部8名、高等部専攻科理療科14名）一人一人の障がいの状態や発達段階、特性に応じた教育を行っています。

また、センター的機能として教育相談にも力を入れており、乳幼児相談から成人相談まで数多くのケースに対応しています。

### 1 具体的取組

本校では、平成29・30年度の2年間、福岡県学校給食研究会及び公益財団法人福岡県学校給食会学校給食研究会の指定委嘱事業を受け、「食を大切にし、食に主体的に関わろうとする幼児児童生徒の育成」を主題に食育について全校で取り組んできました。

取組を始める前に児童生徒、保護者、教

員を対象に行った食に関するアンケートでは、次のような課題が明らかとなりました。

① 給食時間を楽しみにしている児童生徒が多いが、「ただ出されたものを食べている」といった様子で、目の前の食事の内容について考えながら食べる姿はあまり見られない。

② 生活経験の少なさや視覚から情報を得ることの困難さから、食に対する興味・関心がわきにくい傾向がある。また、食べ物の名前や種類、料理に使われている材料、食品の保存の仕方等に関する知識等が日常生活の中で得られにくい。

③ 見えにくいことから、お皿から料理をかき込むような食べ方になりがちである。また、人から見られているという意識が低いいため、箸の使い方等のマナー面に課題がある。

④ 食事は大切だという認識はあるが、自

分の成長や健康のために今までに学んだことを日常生活に生かし、自ら進んで生活を工夫しようとするまでには至っていない。

これらの結果から、本校では「学びを生活に生かすことが難しい」という児童生徒の実態があり、「学びを日常生活につなぐ」ことを意識した指導、具体的にはこれまでも行ってきた様々な体験活動を再度「日常生活につなぐ」という観点で捉えなおすことが必要ではないかと考えました。

そこで、「授業における取組（体験活動の見直し、教科等横断的な指導、視覚障がい特性に応じた工夫）」及び「食のノートへの活用」という2つの柱を立て全学部・寄宿舎で取組むこととしました。本稿では小学部・中学部の取組を紹介します。

## 2 取組の実際

### (1) 小学部の取組

小学部では、「食のチェックリストの活用」、「朝の会や給食時間での実践的な指導」、「授業等での体験的な活動（特に新たな情報を理解していくために基本となる核となる体験）の重視」、「元気ノート（食のノート）の活用」の4点について低学年、高学年、重複学級の

3つのグループで取り組みました。

給食時間になかなか食べなかつたり、遊びだしたり、食べ終わるのが極端に遅かったりする児童に対し、朝の会や特別活動、自立活動、生活科や国語科の授業、毎日の給食時において、食材に関する知識や基本的な食事のマナーを学ぶための教材「食事のやくそくカード」を活用しながら指導しました。

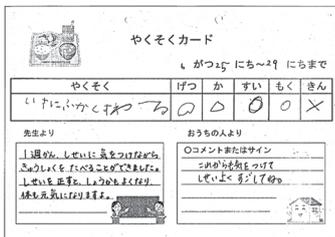
また、生活科の学習では、日常生活にながための工夫として、実際に市場に行くことでその仕組みや雰囲気を感じさせるとともに、実物に触れたり、お店の人にインタビューをしたりする活動を行いました。

これらの取組を元気ノート（食のノート）にまとめることで、児童自身が学習したことへの振り返りや相互の関連付けを図ることができ、食事に対する関心が高まりました。

その結果、実践後には、苦手なものを先



市場での学習



食事のやくそくカード

に食べたり、食べ終わりが早くなったり、箸で「つまむ、切る」ができるようになったり、食事のマナーに気を付けたりするなど、具体的変容が見られました。

### (2) 中学部の取組

中学部では、「食に関する指導の実践計画」及び「日常生活につなぐ食のノートへの工夫」について取り組みました。

「食のノートへの工夫」では、  
① 「食に関する年間指導計画」を学年ごとに作成する。

② チェックリストで現在の自分の食生活をチェックして授業を焦点化する。

③ 体験活動を取り入れた授業実践を行う。

④ 実際にカリキュラムに組み入れ、授業実践につなぐ「食に関する指導の実践計画」を作成する。

という4点について取り組み、体験活動を計画的に工夫した授業実践に結びつけることができました。

また、食のノートの名称を全生徒で考え、「マイレシピ」と命名しました。

「マイレシピ」の内容は、  
○ 授業の体験活動記録である「やってみます」

10月	食に関する指導の年間指導計画	チェックリストのチェック項目	「感謝の心」「将来の自立」を評価の観点とした指導目標	体験活動	どう生活につなぐか
1	総合的な学習の時間 生産活動(陶芸) 「食器を作ろう」	(その他)様々な食器類に携わっている人がいることがわかる。	・作品は、様々な工程に時間をかけてでき上がる ・できた作品を販売したり使用したりする喜びを知ることができる。	・粘土をこねる。 ・食器具作り ・コップ作り体験 ・箸置き作り体験 ・皿作り体験 ・釉薬体験 ・本焼き体験 ・販売する	・使いたいものを作って給食で使用する。 ・家で必要なものを作って使用する。

「食に関する指導の実践計画」

**今月のチャレンジ**

8月 ぬいぐるみ作り

〇目標達成

みんなが楽しく活動できた。

〇チャレンジできて、できたこと

「ぬいぐるみ」を作ることができた。

「ぬいぐるみ」を作る楽しさを知ることができた。

「ぬいぐるみ」を作る楽しさを知ることができた。

**今週のお題**

50年後の未来の給食

b.川田 心

「50年後の未来の給食」について、自分たちが食べている給食と比べて、どんな給食が食べたいか、どんな食器がほしいか、どんな調理方法がほしいか、などについて考えてみた。

「50年後の未来の給食」について、自分たちが食べている給食と比べて、どんな給食が食べたいか、どんな食器がほしいか、どんな調理方法がほしいか、などについて考えてみた。

**やってみます**

給食 5月30日 休

「やってみます」のコーナーでは、毎月1つのテーマを設定し、そのテーマに沿って、様々な体験活動を行います。

「やってみます」のコーナーでは、毎月1つのテーマを設定し、そのテーマに沿って、様々な体験活動を行います。

「マイレシピ」

○ 日常生活を題材とした調べ学習である「今週のお題」

○ 家庭での食育実践である「今月のチャレンジ」

これらをファイリングして記録ノートとして活用できるようにしました。

「やってみます」では、授業での体験活動を記録に残すことで、生活にどうつながっているのか確認でき、生徒自身の食に対する意識の向上につながりました。

「今週のお題」では、生徒自身が考えたお題を生徒全員に発表する場を設けることで、新たな発見があり、食に対する興味関心を広げるよい機会となりました。

「今月のチャレンジ」では、生徒自身が月ごとに家庭でチャレンジできそうなテーマを考え、家族の協力のもと一緒に取り組みました。家庭からのコメントをもらうことで、生徒のモチベーションの向上につながるとともに、日常生活につなぐ意味でも有意義な取組となりました。

### 3 取組の成果と課題

#### (1) 成果

日常生活につながるような身近な教材(題材)を設定したり、授業以外の教育活動全体を通して質の高い体験活動を工夫したりすることで、児童生徒の食に対する興味・関心が高まり、より自分から知ろう、分かっていこう、できるようにしようと主体的な姿が多く見られるようになりました。

また、「食のノート」の活用に関しては児童生徒が取組を系統的・継続的に見通せるもの、食に関して自己課題チェックができるもの、発表や展示、家庭との連絡など交流のツールになるものとして有効でした。このような一連の取組や、給食だより等での保護者への啓発活動の結果、朝食摂取率は取組前と比べて約15%上昇したほか、家庭でも児童生徒が食に興味を持つたり、手

伝いを積極的にしたりするようになったなどの変容を示す声が保護者から寄せられました。

#### (2) 課題

今後の課題として、次の3点が挙げられます。

○ 視覚障がい児(者)にとって情報を上手に得ることにつながるような質の高い体験を授業の中に仕組んでいくこと。

○ 食に関する指導は、生活に直結したものであり、長期にわたった指導が必要であるため、各学部や家庭で「食のノート」を活用し学びをつないでいくこと。

○ それぞれの学習の場において、児童生徒のより詳細で明確な目指す姿を見通して評価規準を設け、指導に当たっていくこと。

#### 終わりに

本校児童生徒が社会的職業的自立を果すためには、何より心身ともに健康であること、食生活をはじめとする生活習慣を自己管理できることが重要です。昨年度までの取組の課題を受け、その解決に向け組織的・継続的取組を行っていきたいと考えています。

# 全国大会を振り返って

福岡県高等学校体育連盟  
福岡県中学校体育連盟  
福岡県高等学校野球連盟

## 1 福岡県高等学校体育連盟

「感動は無量大 南部九州総体2019」が「響かせる我らの魂南の空へ」のスローガンのもと、7月24日から8月20日まで、鹿児島・熊本・宮崎・沖縄の南部九州4県と和歌山県で開催されました。本県からは30競技32種目、参加校88校、選手728名、監督231名、総勢959名が参加しました。

7月27日、鹿児島アリーナでの総合開会式では、旗手・福岡第一高校バスケットボール部3年波田航征選手を先頭に幾竹浩子会長他、本部役員7名、選手10名の計17名で力強く堂々とした入場行進を行いました。

総合開会式後に、県本部役員・選手団による結団式を行いました。

結団式では、福岡県・中島良博教育監、福岡県高体連・幾竹浩子会長より、激励のおこぼをいただき、選手達も福岡県代表としての誇りを胸に、それぞれの競技での活躍を誓いました。

ここでは、本県選手団で顕著な活躍を果たした団体または個人の紹介をします。

### ◆【バスケットボール競技】

男子において、平成31年ウインターカップを制覇した福岡第一高校が圧倒的な強さで勝ち上がり、準決勝で昨年度の覇者、開志国際高校（新潟）に快勝し、決勝では北陸高校（福井）を圧倒し、3年ぶり3度目の優勝を果たしました。

### ◆【剣道競技】

女子団体において、玉竜旗で史上2校目4連覇を果たした中村学園女子高校が決勝戦・東奥義塾高校（青森）に代表戦の末、見事勝利を収め、インターハイ4連覇を成し遂げました。



小手を攻める福岡大学附属大濠高校池田選手

また、男子個人において、池田龍ノ介選手（福岡大学附属大濠高3年）が見事、優勝を果たしました。

### ◆【ハンドボール競技】

女子において、平成31年全国選抜で初優勝した明光学園高校が見事、インターハイも制し2冠を成し遂げました。

### ◆【柔道競技】

男子団体において、大牟田高校が準優勝を果たしました。

個人では、81kg級・竹市大祐選手（大牟田高3年）、100kg級・森健心選手（大牟田高3年）が見事優勝を果たしました。女子においては、48kg級・古賀若菜選手（南筑高3年）が見事大会3連覇を達成し、63kg級・山口葵俣良梨選手（大牟田高3年）も見事優勝を果たしました。

また、男子73kg級・田中裕大選手（大牟田高3年）、が2位入賞を果たしました。

### ◆【フェンシング競技】

女子個人サーブルにおいて、高橋千里香選手（玄界高3年）が決勝で地元鹿児島南高校（鹿児島）の尾崎選手に競り勝ち、見事優勝を成し遂げました。

◆【バレーボール競技】

男子において、東福岡高校が、3位入賞を果たしました。

◆【陸上競技】

個人では、男子400MH・出口晴翔選手（東福岡高3年）が圧倒的な強さで2年連続優勝を果たしました。

また、女子棒高跳び・台信愛選手（中間高3年）が2位、男子400M・藤好駿太選手（修猷館高3年）が3位入賞を果たしました。

◆【テニス競技】

男子団体において、柳川高校が3位入賞を果たしました。

◆【自転車競技】

女子個人500Mタイムトライアル・金田舞夏選手（祐誠高2年）が2位、ケイリン・浦部秀幸選手（祐誠高3年）が3位入賞を果たしました。

◆【レスリング競技】

女子個人において74kg級・中堀水葵選手（築上西高2年）が3位入賞を果たしました。

◆【ボクシング競技】

団体において、東福岡高校が3位入賞を果たしました。

個人では、フライ級・中山慧大選手（東福岡高2年）が2位入賞を果たしました。また、ライトフライ級・中山颯太選手（東福岡高1年）、バンタム級・原田周大選手（豊国学園高3年）、ライト級・祝聖哉選手（豊国学園高3年）が3位入賞を果たしました。

◆【水泳競技】

競泳において、男子100M自由形・中

杉勇斗選手（常盤高3年）が3位入賞を果たしました。

◆【アーチェリー競技】

男子個人において、宮下昌大選手（柏陵高2年）が3位入賞を果たしました。

◆【弓道競技】

女子個人において、大石圭子選手（祐誠高2年）が3位入賞を果たしました。

◆【終わりに】

本年度の南部九州総体は、大きな事故や怪我等もなく優勝数10（団体3校・個人7名）、入賞数63（団体16校・個人47名）という成績で無事、終了しました。

高校生アスリートにとつて最高の舞台であるインターハイで、各競技の選手達は本県代表としての誇りを胸に、持てる力を最後まで全力で発揮してくれました。

終わりに、本県選手団に温かい御声援と様々な面で御支援・御協力を賜りました全ての関係者に心から感謝を申し上げますとともに、今後も県高体連活動の充実・発展を図り、本県高校スポーツの競技力向上と普及・振興に努めたいと思います。

## 2 福岡県中学校体育連盟

中学校運動部活動の頂点を目指す令和元年度全国中学校体育大会夏季大会が、本年度は近畿ブロックにおいて8月17日～25日の9日間にわたり、「君の夢 かなえる場所が 近畿（ここ）にある」のスローガンのもと、各地で熱戦が繰り広げられました。

今年は、本県から15競技353名の選手が県大会、九州大会を勝ち抜き、本県代表

として、全国の舞台に立ちました。

以下、本県の選手の活躍を紹介します。

（予選Ⅱ予選リーグ・決勝Ⅱ決勝トーナメント）

◆【軟式野球】

県大会優勝、九州大会を3位で勝ち上がった浅川中が出場しました。複数の投手を駆使し、決勝まで勝ち上がり、決勝戦は連覇を目指す高知中（高知）との対戦となりました。両エースの投げ合いで試合は延長戦に突入しました。タイブレーク方式で迎えた11回表に待望の先制点を挙げると、その裏の高知中の攻撃を3者三振で抑え、悲願の初優勝となりました。技術の高さはもちろん、ここ一番での勝負強さに加え、チームワークの良さで今大会に「浅川旋風」を巻き起こしました。浅川中の活躍は、全国の公立中学校にとつて大きな刺激となりました。

◆【ソフトボール】

九州大会を2位で勝ち上がった早鞆中（女子）が出場し、決勝進出を果たしました。決勝までの4試合で失点は僅かに1点。バッテリーを中心とした抜群の守備力が光りました。決勝戦は神田女学園中（東京）に延長タイブレークまでもつれ込む熱戦となりましたが、惜しくもサヨナラ負けを喫し、準優勝となりました。悲願の日本一は逃しましたが、準決勝では、目黒日大中（東京）との延長9回タイブレークを勝利するなど、粘り強い戦いを見せ、今大会を大いに盛り上げました。

◆【バスケットボール】

九州大会を制した中村学園三陽中（男子）

と二島中(女子)、全国大会の常連、西福岡中(男子)が出場しました。

中村学園三陽中は、予選L・決勝Tを勝ち上がり、準決勝で吉田中(広島)に惜敗するも、堂々の3位入賞を果たしました。西福岡中は、予選Lを勝ち上がり、決勝T2回戦で優勝した京都精華中(京都)に惜敗しましたが、ベスト8進出を果たしました。

女子は、二島中が予選Lを勝ち上がり、決勝T2回戦で愛知の長良中(愛知)に惜敗しましたが、ベスト8進出の活躍を見せました。

#### ◆【卓球】

団体戦では、県大会を10年連続で制している中間東中(男子)、九州大会を勝ち上がった板櫃中(男子)と、県大会を5年連続で制している中間東中(女子)、九州大会3位の門司中(女子)が全国大会出場となりました。男子の中間東中は、予選Lを突破し、決勝T1回戦で愛工大名電中(愛知)と対戦。強豪相手に善戦するも、惜敗しました。板櫃中(男子)、中間東中(女子)、門司中(女子)は、いずれも予選L敗退となりました。個人戦では、男女7名の選手が出場し、九州大会を制した道廣選手(中間東中)が、男子個人戦で、ベスト8まで勝ち進みました。

#### ◆【柔道】

団体戦では、どちらも3年連続の出場となる大蔵中(男子)、敬愛中(女子)が出場しました。大蔵中は、予選Lを突破し、決勝T2回戦で優勝した埼玉栄中(埼玉)に

惜しくも敗れベスト8でした。敬愛中も予選Lを突破し、決勝Tに進出しました。決勝T2回戦で淑徳中(東京)に敗れ、ベスト8でした。

個人戦では、男女それぞれ8階級の16人が出場しました。女子57kg級で姥選手(篠栗中)が全国の強豪を次々と破り、決勝進出。決勝戦では椿原里選手(和歌山・箕島中)との熱戦を制し、優勢勝ちで見事日本の栄冠を勝ち取りました。女子44kg級で高田選手(北九州城南中)、男子60kg級で井手選手(明星中)、66kg級で末次選手(沖学園中)が準優勝。男子55kg級で松永選手(福岡中)、90kg級で佐藤選手(北九州城南中)、90kg超級で熊谷選手(大蔵中)が3位という好成績を残しました。

#### ◆【剣道】

団体戦では、須恵中(男子)と、那珂川北中(女子)が出場しました。須恵中は、予選L3位で惜しくも決勝T進出は果たせませんでした。一方、那珂川北中は、予選Lを勝ち上がり、決勝Tに進出。準決勝で、加古川中(兵庫)に勝利し、決勝進出を決めました。決勝戦では、地元の新東淀中(大阪)に惜しくも敗れましたが、チームワークのよさが光る見事な準優勝でした。

個人戦では、男子の内田選手(春日野中)がベスト16に入りました。女子の池田選手(中村学園女子中)が予選L・決勝Tを勝ち上がり、決勝進出。決勝戦では、時任選手(東京・日体大桜華中)に競り勝ち、見事日本の栄冠を勝ち取りました。

#### ◆【バレーボール】

九州大会優勝の鞍手中(男子)と、宮ノ陣中(女子)の2校が出場しました。宮ノ陣中は、粘りのバレーで予選Lを突破しましたが、決勝T1回戦で北沢中(東京)に敗れました。

男子の鞍手中も予選Lを突破し、決勝Tへ進出。初戦、串間中(宮崎)、準々決勝で南越中(福井)に競り勝ち、準決勝進出を決めました。準決勝では第六中(山形)に惜敗しましたが、堂々の3位入賞を果たしました。

#### ◆【ソフトテニス】

団体戦では、九州大会優勝の高田中(男子)と、九州大会3位の新宮中(男子)が出場しました。2回戦から登場の高田中は清明学園中(東京)に惜敗しました。1回戦、龍野西中(兵庫)に競り勝った新宮中は、2回戦で見附中(新潟)に敗れました。

個人戦では、九州大会を勝ち上がった、男子の平川選手・瀬戸選手ペア(三輪中)が出場しましたが、2回戦で敗退し、上位進出はなりません。女子では、西村選手・大畑選手(下山門中)が出場しました。持ち前の粘りと、高い身体能力を生かし、破竹の勢いで勝ち上がり、決勝戦まで駒を進めました。決勝戦では、榛原中(奈良)のペアに敗れ、悲願の日本一とはなりませんでしたが、見事な準優勝でした。

#### ◆【バドミントン】

団体戦では、九州国際大付属中が男女で、九州大会3位の江南中(女子)の3校が出場しましたが、3校とも初戦敗退となりました。

した。

個人戦では、男子シングルの西方選手（能古中）、女子ダブルスの千北選手・今村選手（江南中）がそれぞれベスト8進出を果たしました。

#### ◆【水泳競技】

全国標準記録を突破した27人が出場しました。庄巻は、男子背泳ぎに出場した竹原選手（城山中）が100M・200Mを大会新記録で優勝する快挙を果たしました。女子の三村選手（春日野中）も女子背泳ぎ100Mで3位入賞と活躍しました。

#### ◆【相撲】

団体戦では、県大会を制した川崎中が出場しました。予選Lを勝ち上がり、決勝Tも3連勝で、準決勝に進出しました。準決勝では、犀生中（石川）に惜敗しましたが、見事な3位入賞でした。

個人戦では、山崎選手（川崎中）が決勝Tに進みましたが、上位進出とはなりませんでしたが。

#### ◆【陸上競技】

全国標準記録を突破した61人が出場しました。男子400Mで富永選手（羽犬塚中）が2位。男子1500Mでは花本選手（姫浜中）が3位、青木選手（那珂中）が4位入賞を果たしました。

#### ◆【新体操】

河東中（女子）が28位でした。個人では田代選手（宮若西中）が出演し、華麗な演技を披露してくれました。

#### ◆【体操競技】

団体では、九州大会を制した自由ヶ丘中

（男子）が7位と大健闘しました。女子は、板櫃中が出演し、9位に入りました。また個人でも6名の選手が出演し、残念ながら上位入賞者はありませんでしたが、力強く、美しい演技を見せてくれました。

#### ◆【ハンドボール】

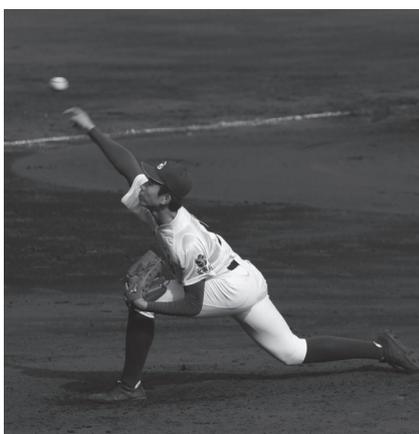
九州大会2位の吉塚中（男子）と3位の粕屋中（男子）が出演しましたが、吉塚中は2回戦、粕屋中は初戦で敗れました。

### 3 福岡県高等学校野球連盟

本県高等学校野球連盟では、硬式・軟式ともに夏の選手権大会、春秋の九州地区大会のそれぞれ県予選を中心に、招待試合、その他支部大会の大会運営や指導者研修会、審判講習会等の企画・運営などを行っています。

今回は、第101回夏の選手権福岡大会と甲子園大会、また、筑陽学園高校が2年ぶりに県勢としてベスト8入りした第91回選抜高校野球を中心に1年を振り返りたいと思います。

まずは、筑陽学園高校が県勢として2年ぶりのベスト8進出を果たした、第91回選抜高等学校野球大会ですが、筑陽学園高校は昨秋熊本県で行われた、第143回九州地区高校野球大会で、タイブレークをはじめ接戦につぐ接戦をものにして優勝。続く明治神宮大会でもベスト4の好成績を収め、選抜出場の権利を得ました。選抜甲子園大会では1回戦で福知山成美高校（京都）に3対2で粘り勝ち、続く2回戦では山梨学院高校（山梨）にこれまた3対2で勝利し、



第91回選抜高校野球大会

ベスト8に進出しました。準々決勝では優勝した東邦高校（愛知）に敗れましたが、昨秋は西館投手の大活躍で選抜出場を手にし、今春は西投手が踏ん張ったの選抜ベスト8と、特に投手陣の層の厚さが際立ちました。一昨年の福岡大学附属大濠高校、東海大福岡高校に続く甲子園ベスト8は県民の皆さんに勇気を与える立派な成績でした。選抜大会後、鹿児島県で行われた第144回九州地区高等学校野球大会には、選抜出場の筑陽学園高校に加え、春の県大会優勝の西日本短期大学附属高校、同準優勝真颯館高校、3位福大大濠高校の4校が出場しました。結果は、本県1位で出場した西短大附高校が好投手宮城選手擁する興南高校（沖縄）を決勝で破り優勝。筑陽学園高校と福大大濠高校がベスト8、真颯館高校も1回戦突破と今年の福岡県のレベルの高さを示してくれました。夏の大会が楽しみになる春の九州大会でした。

5月の招待試合は今年度から1校のみの招待となり、創志学園高校（岡山）を招い

て行いました。初日は雨天中止となりましたが、二日目は、先日のU18世界選手権で大活躍した西選手が2試合とも先発し、本県は真颯館高校、九国大付高校が連敗しました。西選手の投打にわたる迫力が印象的でしたが、その西選手に一步も引かない好投を見せた九国大付高校の下村選手も見事でした。

101回の全国高校野球選手権福岡大会は開会式が3年ぶりにグラウンドで行われましたが、入場行進から正規に行われた開会式は5年ぶりでもあり、図らずもその間の2度にわたる大災害を思い出すきっかけにもなり、改めて被災地の早期の復興を願わずにはいられませんでした。



第101回全国高等学校野球選手権大会

開会式に先立って、今年の甲子園大会のCMに出演した、本県精華女子高校吹奏楽部・ダンス部がパフォーマンスで会場を盛

り上げてくれました。また、行進の済んだ学校から座っての待機や開会式中の給水、さらに、試合においても3・5・7回の給水タイム、ベンチの扇風機設置等の熱中症対策を講じ、成果も十分に表れた大会になりました。今後之余裕のある日程など選手の健康問題は本連盟の喫急の課題であると考えています。

大会は南北とも優勝候補がほぼ順調に勝ち上がり、レベルの高い争いとなりましたが、決勝戦も選抜ベスト8の筑陽学園高校と春の九州大会優勝の西短大附高校の2強対決、真の福岡ナンバー1決定戦ともいえる対戦になりました。先手は西短大附高校がとりましたが、捕手の進藤選手にホームランが飛び出すなど、最後の最後に疲れの見た西短大附高校を筑陽学園高校が突き放し、7対4で16年ぶり2回目の優勝を果たしました。また、今年も公立勢の活躍が目立ちました。ベスト4の東筑高校は後一步で2年ぶりの決勝進出を逃しましたが、秋春と苦しんだ投手陣を整備し、優勝争いに加わったのは見事でした。春日高校も好投手坂本選手を中心に準優勝の西短大附高校を苦しめました。応援賞はさほど大人数ではないものの声を張り上げてクラスメイトを励まし続けた西短大附高校、リーダーによる統率の取れた応援が評価された東筑高校が受賞しました。

春夏連続で筑陽学園高校が出場した101回甲子園本番は春に続く上位進出が期待されましたが、栃木県の名門作新学院高校に初戦で敗れました。しかし、2点ビハイ

ンドを9回2アウトから追いつき、昨年から続く「粘りの筑陽」ここにありを示してくれて頼もしい限りでした。石川選手の打った同点スリーベースが後数十センチ高く上がったというたら逆転サヨナラホームランだったという本場に紙一重の敗戦でしたが、全国の超名門の壁を感じた一戦でもありました。

また、第145回九州地区高校野球大会には堅実な守りと集中打で優勝した福岡第一高校と活発な打線で準優勝した福工大城東高校の2校が出場します。九州大会では昨年のように九州チャンピオンをまた、3年前のようにぜひ選抜切符を2枚手に入れてきてほしいと思います。

軟式は県大会そして北部九州大会を制した福大大濠高校が夏の選手権に出場しましたが、優勝、そして選手権3連覇を果たした、岐阜県の中京学院大中京高校に1対0と大健闘も一歩及ばず初戦敗退となりました。しかし、投手をはじめ2年生が多いチームであり、来年に期待したいと思います。

最後に今年11月30日土曜日に、プロ野球現役選手による実技指導「夢の向こうに」が筑後市のタマホームスタジアム筑後で行われます。本県球児たちにとって思い出に残る一日となることを期待しています。そして、一流のプロ選手から刺激や高度な技術のヒントをもらい、更なる飛躍のきっかけになることを祈っています。

# 教育者としての志を立てる「福岡教師塾」

福岡県教育センター

## ○はじめに

福岡教師塾は、今年度で9年目を迎えました。創設以来大切にしてきた「志を立てて、以て万事の源となす」の言葉のとおり、特色ある研修を通して、確固たる信念に基づく教育観を確立するとともに、学校教育に携わるリーダーに必要な資質・能力を育成することを目指しています。

本稿では、「福岡教師塾」の概要と今年度の研修状況について紹介します。

## 1 福岡教師塾とは

### 〈目的〉

「福岡県の教育をリードするにふさわしい人材の育成を目指して、本県の教育に関する課題に柔軟に対応できる資質・能力の向上を図る」ことを目的として開設された、年間8回の研修講座です。

### 〈主な内容〉

(1) 視野や視座を広げる研修  
各界の専門的知識・技能を有する講師の講演や演習等により、最新の教育的知見、企業等の「経営戦略」や「人材育成」等に関する研修を通して受講生（以下塾生）の視野を広げるとともに、学校教育の課題

解決に向け、研修で得た新たな視座から方策を提案できる資質・能力の育成を目指します。

### (2) 共創する研修

教育に関する様々な課題に主体的かつ柔軟に対応するために、小・中・高・特別支援学校等の異校種の塾生同士が今後の学校教育の在り方等について議論したり、塾生が自ら研修を企画・運営したりする研修を通して、課題解決の方策を共に創り出す資質・能力の育成を目指します。

### (3) 在籍校の課題解決に資する研修

塾生が研修で得た知見を生かし、キャリアステージに応じた自己課題を設定し、その解決に向けた取組を実践することを通して、在籍校の教育課題や経営課題の解決に資するために必要な創造力、企画力、実践力等の資質・能力の育成を目指します。

## 2 福岡教師塾が目指す塾生像

「福岡教師塾」では、目指す塾生の姿を「塾生5つの心得」により示しています。具体的には、次のとおりです。

- 1 「福岡教師塾」塾生としての自覚とともに、自らを鍛え、磨き、高めようとする気持ちをもち続けること
- 2 自らの考えを他者に問い、また、異なる考えを真摯に受け止め、自らの考えを相対化する自修自得の学びを構築すること
- 3 積極的に他者と話し、聞き、接することで、教師としての協働性を醸成し、ともに学び合う喜びを味わうこと
- 4 教師塾で得た知識（知恵）を実の場で活用し、その有用性を感じ得るといふ「実学」を重視すること
- 5 教育への熱い情熱を抱き、確固たる信念に基づく教育観を確立すること

## 3 今年度の内容及び主要な講師陣

各界のリーダーを講師として招聘し、講師を交えた演習等の時間を設定しています。また、異校種の塾生同士が議論する「熟議」を計画的に位置付けたり、塾生自ら研修を企画・運営する研修を充実させたりすることで、課題解決の方策を仲間と共創する喜びや価値を実感できる機会を設定していきます。

7	6	5	4	3	2	1	回	
我が国の教育の 未来と私たち の「志」	保護者や関係 機関を巻き込み、 学校を共創しよう！ 学校に生かす リスク、クライ シス・マネジ メント	企業における 危機管理	出店計画をプレ ゼンしよう！ 食に関わる サービス提供と 人材育成	魅力をアピール！ 自校の広報戦略を 立てよう！	コミュニケーション の大切さ 不幸せもあれば なんでも出来ない 幸せもある	クリエイティブ 脳の鍛え方	鍛えて、ほめて、 伸ばす！ 福岡教師塾に 期待すること	主なテーマ  主な講師
内閣府子ども・ 子育て本部 参事官付参事官補佐 相原康人氏	福岡県立大学 人間社会学科 社会福祉学科 准教授 奥村賢一氏	福岡市交通局 橋本車両基地	福岡市内ホテル ペストリー料理長 成瀬英樹氏	福岡ソフトバンク ホークス株式会社 広報室室長 井上勲氏	脳性まひ コミカルプロマジシャン 森裕生氏 福岡市立特別支援学校 「博多高等学園」 校長 植村昭博氏	株式会社しくみデザイン 代表取締役 中村俊介氏	福岡県教育委員会 教育長 城戸秀明氏	

第3回



井上 勲 氏

「目的」は「存在意義」そのもの。それ以上「なぜ？」と問えないし「数値化」できない。道を見失わないために、「目的」設定は非常に大切。

第1回



城戸 秀明 氏

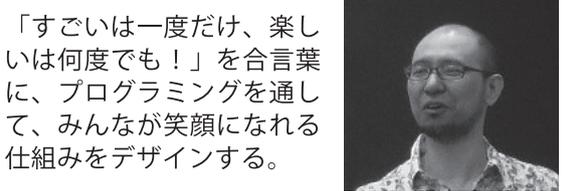
福岡教師塾創設時から、福岡県の教育の現状を踏まえ、県内の教育の核・リーダーとなる研修の実現と、異校種交流による学びの相乗効果を期待している。

第4回



成瀬 英樹 氏

自分の夢や思いだけでなく、多面的・多角的にものごとを考えることが大切であるとともに、職人として誇りとすべきことは「技術は嘘をつかない」こと。



中村 俊介 氏

「すごい是一次だけ、楽しいは何度でも！」を合言葉に、プログラミングを通して、みんなが笑顔になれる仕組みをデザインする。

第2回



森 裕生 氏

障がいは、自分にとっては才能（授かりもの）であり、誇り。その人の力は元々は0や1でも、周りの人の力によって10にでもなる。

〈受講生の声〉

- ・今まで自分のことしか見ていなかったことに気がきました。これからは「俯瞰的に見る」ことを意識したいと思います。
- ・自分の仕事との向き合い方について深く考えさせられました。
- ・グループで交流すると、自分が考えていない視点が次々として出てきておもしろいです。
- ・同校種、異校種の先生方との熟議は大変有意義です。話し合ったことを早速実践しようと思います。



植村 昭博 氏

共に生きる教育とは、お互いが一人一人を大切にしよう教育。子供たちが自分たちで考え自律する、それを支援する教師でありたい。

# スクール・ミュージアム事業（アートコース）について

## 福岡県立美術館

### ■はじめに

スクール・ミュージアム事業は、一般財団法人福岡県教職員互助会、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館、九州歴史資料館が主催する学校支援事業です。児童生徒が、各施設での様々な学習プログラムを通して新たな見方や感じ方、考え方に気付くとともに、文化施設利用のマナーを学習することを目的としています。

現在は、福岡県立美術館でアートコース、福岡県青少年科学館でサイエンスコース、九州歴史資料館で歴史コースをそれぞれ実施しています。

今回は、福岡県立美術館での令和元年度アートコースの実施内容をもとに、本事業についてご紹介します。

### ■事業の概要

#### (1) 実施期間

令和元年5月から令和2年1月まで

#### (2) 対象校

県内の公立小学校・中学校・義務教育学

校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校（両政令市立学校を含む。）

#### (3) 補助対象経費

左記の必要経費（実費相当額）を補助対象経費として福岡県教職員互助会で負担します。

- ・児童生徒及びその引率教職員の観覧料
- ・往復バス借上料（JRや地下鉄、船、車椅子運搬用トラック等交通費を含む。）及び有料道路使用料（実費相当額）
- ・学習プログラムの実施に係る材料費
- ※バス借上料1台当たりの上限があります。
- ※往復の経路に体験活動を行う他の社会教育施設に立ち寄ることも可能です。
- ※福岡県立美術館以外の施設で発生する費用（入場料、駐車料金等）及び旅行傷害保険料は補助対象外です。

### ■実施内容と児童生徒の様子

福岡県立美術館が実施する「アートコース」では、児童生徒の実態や鑑賞する展覧会の特徴などを考慮しながら、学校の担当者と美術

館職員が相談して、あらかじめ用意された活動メニューを組み合わせて学習プログラムを作成します。ここでは、アートコースで実施した活動メニューの一部をご紹介します。

#### ○美術館紹介・鑑賞マナー学習

来館する全ての児童生徒に対して実施する活動です。美術館の役割や使命、そして美術館での鑑賞マナーについて学習します。公共施設でのマナーは来館者全員が心地よく過ごすためにあるものです。理由を考えながら美術館でのマナーを知ること、いろいろな場面でもなぜマナーが必要なのかを理解することができます。

#### ○ギャラリートーク

展覧会を企画した学芸員が、展示作品の中から数点を選び作品解説をします。児童生徒と対話し、発言を取り入れながら話を進めていき、年齢や実態に応じたトークを行います。一例として、「この風景画に描かれた季節や天気について考えてみよう」と学芸員が問いかけ

た際には、光や木々、葉っぱ、水面の様子など作品を見て分かったことや気付いたことについて児童生徒が思い思いに語り合いました。このように、みんなで作品と向き合い、じっくりと鑑賞できる活動です。



作品を解説する学芸員

○お気に入りの作品探し

会場内で自由に作品を鑑賞し、それぞれのお気に入りの（または気に入る）作品を1点選んだ後、クラス、またはグループ内で各自が選んだ作品を紹介します。感想を言い合ったり質問をしたりしながら、作品から感じたことをみんなで共有し膨らませていく活動です。他者と交流することで、児童生徒自身の思いや感じ方が変化していく様子や、同じ作品を見ても人によって感じ方・とらえ方が違



作品を鑑賞する児童

うことに気付いていく様子が見られました。

○デモンストレーション（実演）

例年9月に開催している福岡県美術展覧会（県展）会期中の特別プログラムで、展覧会に作品を出品している公益社団法人福岡県美術協会員の中からゲストティーチャーを招き、制作実演を見学する活動です。水彩絵の具を使って光と影を表現し立体的にコップを描く様子や、「飛び鉋」といった小石原焼の陶芸技法を目の前で見学しました。筆や指先の繊細な動きかき方を見たり、金属が土を削るとき独特な音を聞いたりしたことで作品に対する興味・



「飛び鉋」体験をする生徒



水彩絵の具を使って実演する  
ゲストティーチャー

関心が高まり、新たな視点でその後の展覧会鑑賞に臨む様子が見られました。

○館内見学

一般の方が入ることができないバックヤードを見学します。監視室には監視員がおり、監視カメラで館内の様子を見ることが出来ます。24時間体制で来館者や作品を見守る監視員という仕事についても紹介し、様々な職員が役割をもって美術館で働いていることを理解しました。

■おわりに

現在、次年度（令和2年度）のスクール・ミュージアム事業の参加校を募集中です。募集要項は、一般財団法人福岡県教職員互助会から各学校に発送しています。令和2年2月14日（金）必着で、一般財団法人福岡県教職員互助会に必要書類を添えてお申し込みください。

児童生徒にとって、美術館が生涯にわたって心豊かになれる場となるよう、今後も本事業の充実を図ってまいります。

福岡県立美術館

〒810-0001

福岡市中央区天神5-2-1

（須崎公園内）

TEL 092(715) 3551

FAX 092(715) 3552

ホームページ <http://fukuoka-kenbi.jp/>

# INFORMATION お知らせ

## 福岡県教育センター

### 令和元年度福岡県教育センター研究発表会

学校や教職員の教育活動を支援することを旨とし、本年度取り組んだ調査研究及び長期派遣研修員の研究成果を発表します。

期 日：令和2年2月7日（金）

会 場：福岡県教育センター（受付9時20分）

内 容：長期派遣研修員の研究成果の発表（分科会）（10時25分～14時35分） 調査研究の報告（分科会）（14時50分～16時45分）

主な参加者：①小・中・義務教育・中等教育・高等学校及び特別支援学校の教職員 ②県及び市町村教育委員会の職員 ③福岡県教育研究所連盟加盟機関の職員

※申込方法・その他詳細については、学校宛ての通知文書又はホームページを御覧ください。

問い合わせ先

福岡県教育センター企画部事業計画課

〒811-2401 福岡県糟屋郡篠栗町高田268

TEL 092(947)0893

FAX 092(947)8082

ホームページ <http://www.educ.pref.fukuoka.jp/>

## 福岡県立立少年自然の家「玄海の家」

### フレッシュキャンプ「篠栗」

「玄海の家」では、適応指導教室等に通っている小・中学生を対象とした宿泊体験活動「フレッシュキャンプ」を実施しています。今回は「福岡県立立社会教育総合センター」に宿泊し、家でもできる調理体験や人工芝スキー体験を行います。仲間と協力しながらグループ活動や自然体験活動に取り組んで様々なことを学びます。

期 日：令和2年2月19日（水）～21日（金）  
会 場：福岡県立立社会教育総合センター  
内 容：人間関係づくりレクリエーション、人工芝スキー体験、グループでの調理体験等  
対 象：適応指導教室等に通っている小・中学生

問い合わせ先

福岡県立立少年自然の家「玄海の家」

〒811-3501 福岡県宗像市神湊1276

TEL 0940(62)2511

FAX 0940(62)2513

ホームページ <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/genka/>

## 福岡県立立社会教育総合センター

### 「みんなで育もう！ふくおかの子ども育成支援フォーラム」のお知らせ

社会教育総合センターでは、「つながれ！支援の輪」こともたちに私ができること」をテーマとして、家庭教育・子育て支援、体験活動支援等の学習や交流を行います。家庭教育・子育て支援の在り方についてみんなで考え、参加者同士のネットワークをつくりませんか。たくさんのお参加をお待ちしています。

期 日：令和2年2月8日（土）

時 間：10時00分～16時00分

会 場：福岡県立立社会教育総合センター

基調講演：東海大学名誉教授 山下雅彦氏

分科会：4団体による実践発表（分フェコーナー）においてコピーを準備しています。）

対 象：子どもの育成に関わる個人や団体、学校関係者、地域の保護者、学生、民生委員、児童委員、行政担当者等。（小学生以上を対象とした「子どもプログラム」や、乳幼児の無料託児有※要予約）  
※チラシ及び申込み用紙は当センターのホームページからダウンロードできます。

問い合わせ先

福岡県立立社会教育総合センター研修・情報室

TEL 092(947)3512

FAX 092(947)8029

ホームページ <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/center/index.html>

## 体育スポーツ健康課 学校給食フェア

学校給食についての理解を深めるとともに、親子等で楽しく体験することを通して「食」に関する興味、関心を高め、家庭における食生活の改善や子供たちの望ましい食習慣を形成することを旨として、「学校給食フェア」を開催します。

福岡県産食材をおいしく、楽しく、料理する料理教室、安全・安心な学校給食用食品の展示・試食、楽しく学ぶ食に関する体験活動、クイズラリーなど、楽しいイベントが盛りだくさんです。ぜひ、御来場ください。

期 日：令和2年3月8日（日）

会 場：公益財団法人福岡県学校給食会  
（筑紫野市紫二丁目1番1号）

参加費：無料

問い合わせ先

福岡県教育庁教育振興部 体育スポーツ健康課保健給食係

TEL 092(643)3922

FAX 092(643)3926

## 福岡県体育研究所

### 令和元年度福岡県体育・スポーツ研修報告会

期 日：令和2年2月14日（金）

時 間：9時30分～16時30分（9時受付開始）

会 場：福岡県立立スポーツ科学情報センター

主な内容：福岡県体育研究所及び福岡県立立スポーツ科学情報センターに派遣されている長期派遣研修員並びに福岡県高等学校体育連盟、福岡県高等学校保健体育研究会、福岡県中学校保健体育研究会、福岡県小学校体育研究会、福岡県中学校体育連盟が本年度取り組んだ研究の成果を中心に報告します。

また、スポーツ庁健康スポーツ課連携推進係長の久田晴生氏をお招きして、「地域スポーツと学校部活動との連携について」をテーマとした講演会も実施します。

本研修報告会は、体育・スポーツ関係機関及び団体が一堂に会することで、本県の体育・スポーツの充実・発展のための貴重な機会となっております。

なお、詳しい内容等につきましては、学校宛ての文書又は当所ホームページを御覧ください。

問い合わせ先  
福岡県体育研究所  
〒812-0852 福岡市博多区東平尾公園二丁目一番四号  
TEL 092(611) 0220  
FAX 092(611) 1747  
ホームページ <http://www.falkukenkyusho.ed.jp>

### 放送大学福岡学習センター

#### 自宅で学べる「放送大学」—大学院生 教養学部生 募集—

放送大学は、BS放送やインターネット（スマホ、タブレット等を含む）を通して学ぶ文部科学省・総務省所管の通信制の大学です。

#### 【大学院・教養学部】

・特別支援学校教諭二種免許状や、専修免許状等上位免許状取得に利用できます。

・心理や教育、福祉などの幅広い分野から、大学院は約80科目、教養学部は約300科目を学ぶことができます。

・学生は、自己学習のeラーニングサイト「放送大学自己学習サイト」を利用できます。

#### 【2020年度第1学期学生募集期間】

・【第一回】令和元年11月26日（火）～令和2年2月29日（土）

・【第二回】令和2年3月1日（日）～令和2年3月17日（火）

※各学校には、令和元年6月に「教員のための放送大学活用の手引き（教科・免許編）」の冊子を一部ずつ配付しておりますので、上位免許状等の取得にご利用ください。

なお、同冊子は福岡学習センターホームページにも掲載しています。

資料請求・問い合わせ先

放送大学福岡学習センター

〒816-0811 春日市春日公園6-1

（九州大学筑紫キャンパスE棟4・5階）

TEL 092(585) 3033

FAX 092(585) 3039

## サイエンスラボふくおか 福岡県青少年科学館



星と音楽のタペー  
■弦楽四重奏団とピアノによる  
バレタイン物語と世界の愛の曲巡り

【期日】2月8日（土）  
【時間】18時30分～20時00分（18時00分開場）  
【対象】小学生以上厳守（小・中学生は保護者同伴）  
【参加費】一般620円、ペア券1030円  
児童・生徒310円  
【定員】230名  
【受付開始】1月9日（木）  
【出演者】青花美永久（歌手）、岩崎大輔（ピアノシンセサイザー）、永野紗佑里（チェロ）、小倉由衣（ヴァイオリン）、菅原文子（ヴァイオリン）、福山真由（ヴァイオリン）  
【予定曲】「愛のあいさつ」、「いのちの歌」、「愛の賛歌」、「My Funny Valentine」など

■星空教室  
「冬の天三角」から星座をさがそう！  
～冬の星座～

【期日】①1月18日（土）、②2月1日（土）  
【時間】11時00分～12時30分  
【対象】小学生以上（幼児は保護者の付き添いで同席可）  
【参加費】100円  
【定員】30名  
【受付開始】①12月18日（水）、②1月4日（土）  
【内容】季節のおもな星や星座の探し方をわかりやすく紹介します。また、プラネタリウムで星座探しの体験をすることが出来ます。

■サイエンス教室  
水の科学を体験しよう

【期日】2月22日（土）  
【時間】①10時00分～12時00分、②13時30分～15時30分  
【対象】小学校1年生～中学生（小学生は保護者同伴）  
【参加費】200円  
【定員】各12名  
【受付開始】1月22日（水）  
【内容】水の性質を利用した、不思議な現象を見て、触って体験することが出来ます。

## ものづくり工房 ■燃料電池ミニバギー（初級）



【期日】2月29日（土）  
【時間】10時00分～12時00分  
【対象】小学校3年生～中学生  
【参加費】1500円  
【定員】20名  
【受付開始】1月29日（水）  
【内容】マグネシウムと塩水と空気で発電。安全な次世代エネルギーを使って動くバギーカーです。

## 市民天体観望会

①「すばる」と「オリオン大星雲」を楽しもう  
②「1等星でつくる」冬のダイヤモンド」を楽しもう  
③「明るく輝く宵の明星」金星」を楽しもう  
【期日】①1月11日（土）、②2月1日（土）、③3月7日（土）  
【時間】①②19時00分～20時00分、③19時30分～20時30分  
【会場】福岡県青少年科学館 1階コスモシアター、4階天体観測広場、5階天体観測室  
【参加費】無料  
【対象】どなたでも（中学生以下は保護者同伴）  
【内容】プラネタリウムでの星空解説後、屋上で天体望遠鏡を使った星の観察を行います。（天候不良時も星空解説は行います。）

## 科学工作教室

【期日】毎週日曜日・祝日  
【時間】11時00分～12時00分、14時00分～15時00分  
【対象】どなたでも  
【参加費】100円  
【内容】簡単な科学工作（紙皿回しやキューブ万華鏡、スライコブターなど）をします。



このマークのある教室や催しは、予約が必要です。実施日の1か月前（休館日の場合は翌開館日）の9時30分から電話または直接来館の上、先着順に受け付けます。  
教室や催しに参加する場合、参加費のほかに入館料が必要です。ただし、土曜日は高校生以下の入館料は無料です。また、市民天体観望会の入館料はどなたも無料です。詳しくは科学館ホームページをご覧ください。  
<http://www.science.pref.fukuoka.jp/>

## 染付の陶片【初期伊万里】 （柳川市上町遺跡出土）



なんの変哲もない染付の陶片、「かけら」です。

今も昔も焼き物が割れてしまえば、それは「ゴミ」になってしまいます。無論、大事なものであれば、修理をすることになりますが、多くの人がとつてのそれは無用の長物でしょう。しかし、この「かけら」を愛好する人々もいます。今回紹介する陶片などは、骨董の世界では好きな人も多い隠れた逸品であつたりします。そして、我々研究者にとつても、「かけら」から得られる情報は実に多い。割れた断面を見れば、どのような粘土を使っているのか、釉薬はどのくらいかけるのか、どのくらいの厚さ・薄さなのかなどなど。

染付は中国の元王朝十四世紀前半〜半ばにかけて、磁都・景德鎮で生まれ、瞬く間に世界を席卷するようになります。一方、日本では長く染付は作られず、中国に遅れること三百年余り。伝承では、朝鮮半島からの渡来陶工・李三平により佐賀県有田町泉山で磁石が発見され、元和二年（一六一六）磁器の焼造に成功したのがはじめといわれています。考古学的な調査によつても一六一〇年代には染付が日本で初めて作られたことがわかつており、伝承との年代の差がほぼないことが分かってきました。

これらの日本で最初に作られた染付をはじめとした磁器を一般に「初期伊万里」と呼びます。有田で作られた製品を伊万里港から出したので伊万里の名がつかまりました。このころの日本人が一番欲しかった焼き物は中国の染付でした。だから文様は山水文などの中国趣味のものが多い。しかし、その生産技術は朝鮮半島のものであり、この後、色絵なども作られ中国の技術も導入されていくことになります。日本の材料、朝鮮の技術、中国の文様モチーフ、技術など初期伊万里の陶片「かけら」には東アジア三方国の文化が詰まっているのです。

なお、柳川市上町遺跡は、城下町の一角にあり、日本で作られた最先端の焼き物の多くがここで使われていたことが分かっています。